

0001

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工経験記述で「施工計画、特に留意した事項」を記述する場合、最も評価されやすい構成はどれか。

ア．現場条件→課題→具体的措置→確認方法・結果の順で記述する。
イ．『安全第一で施工した』だけで終える。
ウ．工事名と工期だけを詳しく書く。
エ．結果だけ『無事故で完成した』と書く。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 記述では、なぜその措置が必要だったかと、何をどう実施し、どう確認したかがつながっていることが重要である。
イ：× 抽象的で現場条件・具体策・確認方法が分らない。
ウ：× 施工管理上の判断・措置が示されない。
エ：× 原因となる課題と具体的措置が欠ける。

総合解説：記述では、なぜその措置が必要だったかと、何をどう実施し、どう確認したかがつながっていることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工計画の記述で、現場条件として最も具体性が高いものはどれか。

ア．難しい現場であった。
イ．供用中道路に近接し、昼間は交通量が多く、施工ヤード幅が約6mに制約された。
ウ．注意して施工した。
エ．いろいろ問題があった。

答え・解説

正答：イ

ア：× 何が難しかったのか分らない。
イ：○ 場所・時間・交通量・作業空間など、施工方法へ直接影響した条件を具体化すると判断根拠が明確になる。
ウ：× 現場条件ではなく抽象的な行動表現である。
エ：× 課題の内容が特定できない。

総合解説：場所・時間・交通量・作業空間など、施工方法へ直接影響した条件を具体化すると判断根拠が明確になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

当初計画を現場条件に応じて変更した経験を記述する場合、最も適切な内容はどれか。

ア．変更した事実だけを書く。
イ．当初計画を全く書かず変更後だけを書く。
ウ．変更前の計画、判明した条件、変更理由、変更後の施工方法を対応させて書く。
エ．『監督員に言われたから変更した』だけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 判断根拠が示されない。
イ：× 何をどう改善したか比較できない。
ウ：○ 施工計画の応用能力を示すには、変更理由と変更後の方法が論理的につながっている必要がある。
エ：× 技術的理由や現場判断が示されない。

総合解説：施工計画の応用能力を示すには、変更理由と変更後の方法が論理的につながっている必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：基礎

施工計画の記述で、工程との整合を示す表現として最も適切なものはどれか。

ア．できるだけ早く施工した。
イ．作業員に急ぐよう指示した。
ウ．工程は現場任せとした。
エ．交通規制可能時間に合わせて作業を分割し、各工程の所要時間と資機材搬入時間を確認した。

答え・解説

正答：エ

ア：× 具体的な工程計画が分からない。
イ：× 計画ではなく精神論に近い。
ウ：× 主任技術者としての計画性が示されない。
エ：○ 施工方法だけでなく、実行可能な時間配分まで確認しているため施工計画として具体性がある。

総合解説：施工方法だけでなく、実行可能な時間配分まで確認しているため施工計画として具体性がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

狭い現場で資材搬入とバックホウ作業が干渉する。施工計画の記述として最も適切なものはどれか。

ア．搬入時間を掘削作業と分離し、仮置場と重機旋回範囲を事前に図示して作業員へ周知した。
イ．作業員同士で譲り合うよう伝えた。
ウ．資材は空いている場所へその都度置いた。
エ．搬入車と重機を同時に動かして効率を上げた。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 時間分離と空間分離を組み合わせることで干渉リスクを低減しており、具体的に再現性のある計画である。
イ：× 仕組みとしての干渉防止策が弱い。
ウ：× 配置計画がなく通路閉塞等の原因となる。
エ：× 接触リスクが増える。

総合解説：時間分離と空間分離を組み合わせることで干渉リスクを低減しており、具体的に再現性のある計画である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

深い掘削工事の施工順序を記述する際、最も適切なものはどれか。

ア．最終掘削後にまとめて支保工を設置した。
イ．掘削段階ごとに土留め支保工の設置時期を定め、各段階の安定を確認して次工程へ進んだ。
ウ．掘削深さだけ決め、支保工時期は現場判断とした。
エ．工程短縮のため支保工を省略した。

答え・解説

正答：イ

ア：× 途中段階で崩壊リスクが生じる。
イ：○ 仮設構造物は施工途中の安定も重要で、掘削と支保工の順序を対応させる必要がある。
ウ：× 施工順序が不明確である。
エ：× 安全確保に反する。

総合解説：仮設構造物は施工途中の安定も重要で、掘削と支保工の順序を対応させる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

河川工事の施工計画で降雨・出水を考慮した記述として最も適切なものはどれか。

ア．雨が降ったら各自で判断することとした。
イ．天気予報は確認せず現場水位だけを見ることとした。
ウ．上流域の雨量・水位情報を監視し、退避開始水位と機械退避順序を事前に定めた。
エ．出水時も工程優先で作業を継続することとした。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 判断基準と指揮系統が不明確である。
イ：× 上流降雨等の予兆情報を活用していない。
ウ：○ 気象情報と具体的な中止・退避条件を結び付けており、実行可能な施工計画になっている。
エ：× 安全な施工計画ではない。

総合解説：気象情報と具体的な中止・退避条件を結び付けており、実行可能な施工計画になっている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

住宅近接工事の施工計画で環境条件を反映した記述として最も適切なものはどれか。

ア．近隣には工事なので我慢してもらうこととした。
イ．苦情が出てから対策を考えることとした。
ウ．機械配置は施工性だけで決めた。
エ．低騒音型機械を採用し、住宅から離して配置するとともに、騒音作業の時間帯を限定した。

答え・解説

正答：エ

ア：× 技術的な環境対策がない。
イ：× 予防的な施工計画になっていない。
ウ：× 周辺環境条件を考慮していない。
エ：○ 発生源・距離・時間帯の複数対策を施工計画へ具体的に反映している。

総合解説：発生源・距離・時間帯の複数対策を施工計画へ具体的に反映している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

施工中に地下埋設物の位置が図面と異なることが判明した。施工計画の対応として最も適切なものはどれか。

ア．実位置を確認し、掘削範囲・施工手順・保護方法を見直して施工計画へ反映した。
イ．当初図面が正しいものとして施工を続けた。
ウ．作業員だけに口頭で知らせ、計画書は変更しなかった。
エ．埋設物がある部分だけ急いで掘削した。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 現場条件が変化した場合は、当初計画に固執せず変更内容を計画・周知へ反映する必要がある。
イ：× 現地確認結果を無視している。
ウ：× 正式な施工管理資料との不整合が生じる。
エ：× 接触事故の危険が高い。

総合解説：現場条件が変化した場合は、当初計画に固執せず変更内容を計画・周知へ反映する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：標準

施工計画の経験記述として、最も技術的な内容はどれか。

ア．みんなで協力して頑張った。
イ．盛土材の含水状態と運搬能力を確認し、層厚・転圧回数・施工区画を調整して日施工量を設定した。
ウ．経験者に任せたので問題なかった。
エ．予定どおり施工した。

答え・解説

正答：イ

ア：× 技術的な施工管理内容ではない。
イ：○ 材料条件・機械能力・施工条件を組み合わせる具体的な施工量へ落とし込んでいる。
ウ：× 本人の判断・管理内容が示されない。
エ：× どのような計画・管理を行ったか分からない。

総合解説：材料条件・機械能力・施工条件を組み合わせる具体的な施工量へ落とし込んでいる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

供用中道路脇で、作業ヤードが狭く、夜間施工に限定され、地下埋設物もある。施工計画として最も適切なものはどれか。

ア．各条件を別担当へ任せ、相互の調整は行わなかった。
イ．夜間なので埋設物確認を省略した。
ウ．交通規制時間、埋設物位置、重機動線、資材搬入順序を一つの施工ステップ図に整理し、作業開始前に関係者で確認した。
エ．交通規制中は重機を自由に配置できると考えた。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 条件間の干渉を見落とす可能性がある。
イ：× 施工時間帯と埋設物リスクは別問題である。
ウ：○ 複数の制約条件を個別管理せず、施工順序へ統合している点が実地的な施工計画として優れている。
エ：× 狭隘条件や埋設物を考慮する必要がある。

総合解説：複数の制約条件を個別管理せず、施工順序へ統合している点が実地的な施工計画として優れている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012

施工経験記述 > 施工計画の記述 | 難易度：応用

施工計画案Aは工期が最短だが重機と人の動線が重なる。案Bは1日長いが動線分離でき、品質確認時間も確保できる。最も適切な判断はどれか。

ア．最短であることだけを理由に案Aを採用する。
イ．案Bは遅いので検討対象から外す。
ウ．どちらも同じとして現場当日に決める。
エ．安全・品質を確保できる案Bを基本とし、必要に応じ資源配分で工期短縮を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 安全・品質リスクを無視している。
イ：× 総合評価が必要である。
ウ：× 事前計画として不十分である。
エ：○ 施工計画は工期だけでなく安全・品質・実行可能性を総合評価して選定する。

総合解説：施工計画は工期だけでなく安全・品質・実行可能性を総合評価して選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の施工経験記述として、最も適切な構成はどれか。

ア．要求品質→想定した品質リスク→管理方法→測定・試験結果→必要な措置の順で記述する。
イ．『品質に注意した』だけを書く。
ウ．試験名だけを列挙する。
エ．完成後の感想だけを書く。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 品質記述では、規格値だけでなく、どの品質リスクをどう管理し、結果から何を判断したかを示すことが重要である。
イ：× 具体的な管理内容がない。
ウ：× 結果の評価と措置が示されない。
エ：× 施工中の品質管理が分からない。

総合解説：品質記述では、規格値だけでなく、どの品質リスクをどう管理し、結果から何を判断したかを示すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

品質管理の記述として、最も具体性が高いものはどれか。

ア．十分に締め固めた。
イ．盛土の締固め度を所定頻度で測定し、管理基準を下回った区画は含水調整後に再転圧した。
ウ．よく確認した。
エ．問題なく施工できた。

答え・解説

正答：イ

ア：× 判定方法が不明である。
イ：○ 測定、判定、是正の流れが明確で、品質管理の実務を具体的に示している。
ウ：× 何をどう確認したか分からない。
エ：× 管理方法・根拠がない。

総合解説：測定、判定、是正の流れが明確で、品質管理の実務を具体的に示している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：基礎

コンクリート品質の経験記述で、試験結果の活用を示す内容として最も適切なものはどれか。

ア．試験はしたが結果は確認しなかった。
イ．結果が外れても全量使用した。
ウ．スランプ・空気量等を受入れ時に確認し、異常値が出た場合は原因確認後に受入可否を判断した。
エ．試験成績表は完成後だけ見ることにした。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 品質管理として機能していない。
イ：× 規格・原因確認が必要である。
ウ：○ 試験を実施するだけでなく、結果を施工判断へつなげている。
エ：× 受入時判断に使えていない。

総合解説：試験を実施するだけでなく、結果を施工判断へつなげている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

盛土の現場密度が一部区画で低下した。品質管理の記述として最も適切なものはどれか。

ア．測定値だけ記録し施工を続けた。
イ．すべて測定器の誤差と判断した。
ウ．低い値を平均値から除外した。
エ．低下区画の含水比・層厚・転圧回数を確認し、原因に応じて再転圧・材料調整を行い再測定した。

答え・解説

正答：エ

ア：× 不適合を放置している。
イ：× 原因確認をせず決めつけている。
ウ：× データ改変となる。
エ：○ 単に再施工するのではなく、原因を確認して是正し、再測定で効果を確認する流れが重要である。

総合解説：単に再施工するのではなく、原因を確認して是正し、再測定で効果を確認する流れが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

コンクリート材料の受入れ品質を記述する場合、最も適切なものはどれか。

ア．納入伝票と配合条件を確認し、フレッシュ性状試験結果が管理範囲内であることを確認して打込み可否を判断した。

イ．納入業者を信用して試験を省略した。

ウ．伝票だけ見て現場試験は行わなかった。

エ．異常値でも時間優先で打ち込んだ。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 材料・配合・試験結果を受入れ判断へ結び付けている。

イ：× 必要な品質確認がない。

ウ：× 現場で確認すべき品質項目がある。

エ：× 品質不良につながる。

総合解説：材料・配合・試験結果を受入れ判断へ結び付けている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

マスコンクリートのひび割れ対策を経験記述する場合、最も適切な内容はどれか。

ア．ひび割れが出ないように祈った。

イ．温度上昇・拘束条件を考慮し、打込み区画・養生・温度管理方法を設定してひび割れ発生を抑制した。

ウ．ひび割れ発生後に全て表面だけ塗装した。

エ．温度条件は品質と無関係とした。

答え・解説

正答：イ

ア：× 技術的対策ではない。

イ：○ ひび割れの原因機構と対策が対応しており、技術的な記述になっている。

ウ：× 原因に応じた補修・予防が必要である。

エ：× マスコンクリートでは重要な要因である。

総合解説：ひび割れの原因機構と対策が対応しており、技術的な記述になっている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

品質管理の記述で写真管理を含める場合、最も適切な内容はどれか。

ア：写真は多ければ内容に関係なくよい。
イ：撮影位置を記録しなかった。
ウ：後から確認できない施工状況について、測定値・試験結果と撮影位置・日時を対応させて記録した。
エ：不適合箇所の写真だけ削除した。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 必要な対象・時点を記録することが重要である。
イ：× 追跡性が低い。
ウ：○ 品質データと写真を対応させることで追跡性が高まる。
エ：× 客観的な品質記録を損なう。

総合解説：品質データと写真を対応させることで追跡性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：標準

出来形や品質の測定値が規格値内ではあるが、連続して限界値近くへ偏っている。最も適切な品質管理はどれか。

ア：規格内なので一切確認しない。
イ：平均だけ規格内なら個々の値は見ない。
ウ：限界値付近のデータだけ記録から外す。
エ：規格内でも傾向異常として工程・機械・測定条件を確認し、必要なら早期是正する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 不良の前兆を見逃す。
イ：× 個別値と傾向の両方を確認する。
ウ：× 不適切なデータ操作である。
エ：○ 合否判定だけでなく、傾向を見て不良発生前に原因へ手を打つことが品質管理として望ましい。

総合解説：合否判定だけでなく、傾向を見て不良発生前に原因へ手を打つことが品質管理として望ましい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

コンクリートでスランプ変動が大きく、圧縮強度も一部低い。最も適切な品質管理の記述はどれか。

ア．材料・配合・運搬時間・加水有無・締固め・養生記録を照合し、原因を特定して該当ロットの評価と是正を行った。

イ．強度低下はすべて試験機の誤差とした。

ウ．スランプと強度は無関係として別々に記録しただけ。

エ．異常値を平均計算から除外して合格扱いとした。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 複数の品質異常がある場合、単一要因に決めつけず製造から養生までの記録を横断して原因を分析する必要がある。

イ：× 根拠なく一因へ決めつけている。

ウ：× 共通原因の可能性を検討すべきである。

エ：× 不適切な品質管理である。

総合解説：複数の品質異常がある場合、単一要因に決めつけず製造から養生までの記録を横断して原因を分析する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022

施工経験記述 > 品質管理の記述 | 難易度：応用

次の品質管理記述のうち、主任技術者としての応用能力を最も示しているものはどれか。

ア．規格値を覚えていた。

イ．事前に管理値を設定し、施工中の測定結果を傾向管理し、異常兆候を捉えて施工条件を変更し、その効果を再測定で確認した。

ウ．検査員が来た時だけ測定した。

エ．不良が出たら下請の責任とした。

答え・解説

正答：イ

ア：× 知識だけで実地の管理能力が示されない。

イ：○ 計画、測定、判断、是正、効果確認まで一連のPDCAが示されている。

ウ：× 継続的な品質管理になっていない。

エ：× 原因分析・是正能力が示されない。

総合解説：計画、測定、判断、是正、効果確認まで一連のPDCAが示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

安全管理の施工経験記述として、最も適切な内容はどれか。

ア．安全第一で作業した。
イ．無事故だったとだけ書く。
ウ．危険源、想定災害、具体的対策、実施確認までを対応させて記述する。
エ．作業員に任せた。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 抽象的で管理内容が分からない。
イ：× 対策内容が示されない。
ウ：○ 安全記述では『注意した』ではなく、危険源と対策を具体的に示す必要がある。
エ：× 管理者としての行動が示されない。

総合解説：安全記述では『注意した』ではなく、危険源と対策を具体的に示す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：基礎

危険予知活動を経験記述に含める場合、最も適切な内容はどれか。

ア．毎日同じ標語を読み上げた。
イ．危険項目は管理者だけで決め作業員へ伝えなかった。
ウ．KY記録だけ作り実際の対策は行わなかった。
エ．当日の作業条件から危険ポイントを抽出し、重点対策と担当者を確認してから作業を開始した。

答え・解説

正答：エ

ア：× 現場条件への対応が弱い。
イ：× 共有が必要である。
ウ：× 形骸化している。
エ：○ KYを形式的実施ではなく、当日の作業条件と具体的行動へ結び付けている。

総合解説：KYを形式的実施ではなく、当日の作業条件と具体的行動へ結び付けている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

重機と作業員が近接する現場の安全管理記述として、最も適切なものはどれか。

ア．人と重機の動線を分離し、やむを得ず交差する箇所は誘導員と合図方法を定めた。
イ．運転者の経験に任せた。
ウ．警笛だけで接触防止とした。
エ．作業員に重機の近くを通るよう指示した。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 危険源への接近機会を減らし、残る交差部を管理している。
イ：× 死角や誤認を防ぎきれない。
ウ：× 多重対策が必要である。
エ：× 接触リスクが高まる。

総合解説：危険源への接近機会を減らし、残る交差部を管理している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

高所作業の経験記述として最も適切なものはどれか。

ア．保護帽だけで墜落対策とした。
イ．作業床・手すり等を優先して設け、開口部を養生し、必要箇所では墜落制止用器具の使用条件も確認した。
ウ．熟練者は手すりなしで作業させた。
エ．開口部に注意表示だけ置いた。

答え・解説

正答：イ

ア：× 墜落そのものを防止できない。
イ：○ 設備対策を優先し、必要な個人用保護具も組み合わせている。
ウ：× 経験で墜落リスクはなくなるらない。
エ：× 物理的防護が必要である。

総合解説：設備対策を優先し、必要な個人用保護具も組み合わせている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

掘削工事の安全管理記述として、最も適切なものはどれか。

ア．異常時も現場責任者が来るまで作業を継続した。
イ．亀裂は小さければ記録しなかった。
ウ．湧水増加、地山亀裂、土留め変位などの中止基準を定め、異常時は退避後に原因確認・補強を行った。
エ．工程優先で中止基準を設けなかった。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 急迫危険では停止・退避が優先である。
イ：× 前兆情報を管理すべきである。
ウ：○ 事前に異常兆候と中止行動を定めておくことで、判断遅れを防げる。
エ：× 安全管理として不適切である。

総合解説：事前に異常兆候と中止行動を定めておくことで、判断遅れを防げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：標準

市街地工事の安全管理経験として、最も適切なものはどれか。

ア．歩行者に工事車両を避けてもらった。
イ．出入口の視界を資材で塞いだ。
ウ．一般通行があるが誘導は行わなかった。
エ．工事車両出入口で歩行者動線を分離し、見通しが悪い時間帯は誘導員を配置した。

答え・解説

正答：エ

ア：× 施工者側の対策が不足している。
イ：× 接触リスクが高まる。
ウ：× 第三者災害防止策が不足する。
エ：○ 作業員だけでなく第三者の安全を具体的に管理している。

総合解説：作業員だけでなく第三者の安全を具体的に管理している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

誘導員を配置した後も重機接触のヒヤリハットが続いた。安全管理記述として最も適切なものはどれか。

ア．誘導員配置だけで十分とせず、動線・死角・合図・作業時間を再評価し、物理的分離を追加した。
イ．誘導員を置いたので原因分析を終了した。
ウ．ヒヤリハット報告をやめた。
エ．作業員の注意不足だけを原因とした。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 対策を実施した事実ではなく、実際にリスクが下がったかを確認して追加対策へつなげている。
イ：× 効果が出ていないため見直しが必要である。
ウ：× 危険情報を失う。
エ：× 設備・動線等も再評価すべきである。

総合解説：対策を実施した事実ではなく、実際にリスクが下がったかを確認して追加対策へつなげている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030

施工経験記述 > 安全管理の記述 | 難易度：応用

安全管理の記述として、主任技術者の判断力を最も示すものはどれか。

ア．変更があっても当初手順を維持した。
イ．施工条件変更で新たな危険を再評価し、作業手順・立入区域・人員配置を変更し、変更内容を全員へ周知して再開した。
ウ．変更内容を管理者だけが把握した。
エ．事故が起きるまで安全計画は変更しなかった。

答え・解説

正答：イ

ア：× 新たな危険を見落とす。
イ：○ 変更管理とリスクアセスメントを連動させ、具体的なのは正と周知まで実施している。
ウ：× 実作業者への周知が必要である。
エ：× 予防的な管理になっていない。

総合解説：変更管理とリスクアセスメントを連動させ、具体的なのは正と周知まで実施している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程会議で、掘削が2日遅れ、別系統の資材納入も3日遅れることが同時に判明した。工程回復策を決める前の整理として、最も適切なものはどれか。

ア．遅延日数を単純に足し、必ず5日の工期延長と判断する。
イ．どちらか一方を元請責任と決め、もう一方は分析しない。
ウ．各遅延が影響する作業経路、同時発生期間、余裕時間、後続工程への影響を分けて確認する。
エ．全作業員へ一律に残業を指示し、原因分析は後回しにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 異なる経路で同時に生じる遅延は単純加算できない場合がある。
イ：× 原因と工程影響を客観的に整理する必要がある。
ウ：○ 複数遅延は、作業経路・重複期間・フロート・後続工程への影響を整理して全体影響を判断する。
エ：× 原因と支配工程を把握せず資源を増やしても有効とは限らない。

総合解説：複数の工程遅延では、遅延日数の合計ではなく、ネットワーク上の影響と重複期間を整理して回復策を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程遅延を早期に発見する管理方法として、最も適切なものはどれか。

ア．完成予定日だけを工事最終日に確認する。
イ．実績を記録せず感覚で進捗を判断する。
ウ．遅延が確定するまで工程表を見ない。
エ．計画工程と実績工程を定期的に比較し、進捗差を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 発見が遅すぎる。
イ：× 客観性がない。
ウ：× 予防的な工程管理にならない。
エ：○ 計画と実績を継続的に比較することで、遅延を早期に把握して是正できる。

総合解説：計画と実績を継続的に比較することで、遅延を早期に把握して是正できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

工程回復策を検討する際の基本として、最も適切なものはどれか。

ア．遅延原因に応じて作業順序、資源、施工方法等を見直し、安全・品質を確保できる案を選ぶ。
イ．安全確認を省略して時間を稼ぐ。
ウ．品質試験を減らして施工を進める。
エ．全工種へ同じ人数を追加する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 工程回復は単なる作業速度向上ではなく、原因に対応した実行可能な改善策を選定することが重要である。
イ：× 安全を犠牲にした回復策は不適切である。
ウ：× 品質確保を損なう。
エ：× 原因に応じた対策になっていない。

総合解説：工程回復は単なる作業速度向上ではなく、原因に対応した実行可能な改善策を選定することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：基礎

降雨により土工が数日遅れた場合の工程対応として、最も適切なものはどれか。

ア．雨天でも同じ土工を無理に継続する。
イ．土工再開条件を確認しつつ、天候影響を受けにくい作業へ一時的に切り替えることを検討する。
ウ．全作業を中止して何もしない。
エ．土工の品質基準を下げて施工する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 品質・安全上の問題が生じる可能性がある。
イ：○ 天候回復を待つだけでなく、施工可能な別作業へ資源を移すことで全体遅延を抑えられる場合がある。
ウ：× 代替作業の検討余地がある。
エ：× 品質要求を変更してはならない。

総合解説：天候回復を待つだけでなく、施工可能な別作業へ資源を移すことで全体遅延を抑えられる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

主要資材の納入が3日遅れる見込みだが、その作業には1日の余裕がある。また、代替材料を使用するには承認に2日必要である。工程対応として最も適切なものはどれか。

ア．余裕1日があるので、3日の納入遅延でも何も対応せず待つ。
イ．承認前の代替材料を先に使用し、書類は後から整える。
ウ．納入遅延の実影響を2日と見込み、代替案の承認手続と先行可能作業の振替を並行して進める。
エ．代替材料の承認に2日かかるため、必ず工期を5日延長する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 3日の遅延から1日の余裕を考慮すると、工程影響は少なくとも2日分検討が必要である。
イ：× 承認が必要な代替材料を無断使用してはならない。
ウ：○ 代替案を承認待ちだけにせず、先行可能作業と並行して回復策を進めるのが合理的である。
エ：× 遅延日数と承認日数を単純加算するのではなく、並行処理可能性を確認する。

総合解説：工程回復ではフロートを考慮し、承認・調達・先行作業を並行して進められるかを整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

主要バックホウが故障し、掘削工程が停止した。最も適切な対応はどれか。

ア．故障機を安全確認せず使い続ける。
イ．修理完了まで工程検討を一切行わない。
ウ．別工程の重機を無断で移し、そちらを停止させる。
エ．修理所要時間と代替機調達時間を比較し、工程への影響が小さい方法を選定する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 事故やさらなる故障につながる。
イ：× 代替案を検討する必要がある。
ウ：× 全体工程への影響を評価する必要がある。
エ：○ 設備故障では、復旧時間・代替能力・コスト・後続工程への影響を比較して対策を決める。

総合解説：設備故障では、復旧時間・代替能力・コスト・後続工程への影響を比較して対策を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

熟練作業員の欠員により施工速度が低下した。最も適切な対応はどれか。

ア．必要技能を整理し、応援要員の確保や作業分担変更、施工方法見直しを検討する。
イ．未経験者を危険作業へ単独配置する。
ウ．休憩を削って不足を補う。
エ．技能差を無視して全員同じ作業へ配置する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 単純な人数追加だけでなく、必要技能と作業内容に対応させることが工程回復に重要である。
イ：× 安全・品質リスクが高い。
ウ：× 健康・安全上不適切である。
エ：× 作業効率・品質が低下する可能性がある。

総合解説：単純な人数追加だけでなく、必要技能と作業内容に対応させることが工程回復に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

後続作業の一部が先行可能であることが分かった。工程回復策として最も適切なものはどれか。

ア．先行可能か確認せずすべて同時施工する。
イ．施工条件・品質・安全上の干渉を確認し、問題がなければ作業順序を変更する。
ウ．工程短縮のため必要養生期間を省略する。
エ．施工順序変更を関係者へ知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 相互干渉や品質問題を生じる可能性がある。
イ：○ 工程順序変更は有効だが、技術的な前後関係や作業干渉を確認して実施する必要がある。
ウ：× 品質要求を満たせない。
エ：× 作業間調整ができない。

総合解説：工程順序変更は有効だが、技術的な前後関係や作業干渉を確認して実施する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

数量ベースでは70%施工済みだが、重要な後工程につながる作業が遅れている。最も適切な工程評価はどれか。

ア．70%完了なので工程上問題ないと判断する。
イ．数量が少ない作業は必ず工程影響が小さいとする。
ウ．全体出来高だけでなく、後続工程を支配する作業の進捗を重点的に確認する。
エ．出来高率だけで全工程を評価する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 重要作業の遅れを見落とす。
イ：× 少量でも重要な前提作業がある。
ウ：○ 出来高率が高くても重要作業が遅れていれば全体工期に影響するため、工程上の重要度を考慮する。
エ：× 作業の前後関係を考慮できない。

総合解説：出来高率が高くても重要作業が遅れていれば全体工期に影響するため、工程上の重要度を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

工程回復のため作業員と重機を増やす案が出たが、作業ヤードが狭い。最も適切な判断はどれか。

ア．人数と機械は多いほど必ず早くなる。
イ．安全通路を資材置場へ変更して作業場所を増やす。
ウ．誘導員を減らして機械台数を増やす。
エ．増員・増機で干渉が増えないか確認し、適正な作業密度を超える場合は別案を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 過密配置は逆効果となる場合がある。
イ：× 安全を損なう。
ウ：× 安全リスクが高まる。
エ：○ 資源を増やしても作業空間が不足すれば生産性が下がり、安全リスクも高まる。

総合解説：資源を増やしても作業空間が不足すれば生産性が下がり、安全リスクも高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：標準

工程回復策として昼夜交替施工へ変更する。最も適切な対応はどれか。

ア：交替時の引継ぎ、騒音・交通・照明、安全管理、労働時間を確認して変更計画を周知する。
イ：夜間は人が少ないので安全確認を減らす。
ウ：交替班間の引継ぎを省略する。
エ：労働時間上限は工程回復中は無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 昼夜施工への変更は工程だけでなく安全・環境・労務条件を変えるため総合調整が必要である。
イ：× 視認性等の別リスクがある。
ウ：× 情報断絶が生じる。
エ：× 法令遵守が必要である。

総合解説：昼夜施工への変更は工程だけでなく安全・環境・労務条件を変えるため総合調整が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

資材遅延、降雨、重機故障が同時に発生した。最も適切な工程回復方法はどれか。

ア：3要因の日数をすべて単純加算して工期延長とする。
イ：各要因の影響日数と対象作業を整理し、重複する遅延を除いて全体影響を把握し、優先順位を付けて対策する。
ウ：最も目立つ一要因だけ対策する。
エ：全要因を下請責任として工程分析をしない。

答え・解説

正答：イ

ア：× 重複期間を考慮していない。
イ：○ 複数遅延は単純加算せず、同時発生や作業前後関係を考慮して全体工程への影響を分析する必要がある。
ウ：× 他要因の影響が残る。
エ：× 客観的な工程分析が必要である。

総合解説：複数遅延は単純加算せず、同時発生や作業前後関係を考慮して全体工程への影響を分析する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

回復案Aは夜間施工追加、案Bは施工順序変更、案Cは機械増設である。最も適切な選定方法はどれか。

ア．最も工期が短い案を無条件で採用する。
イ．最も安い案だけを採用する。
ウ．回復日数だけでなく、安全・品質・法令・周辺影響・コスト・実行可能性を比較して選ぶ。
エ．案を比較せず当日現場で決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 他の制約を無視している。
イ：× 安全・品質等の評価が不足する。
ウ：○ 工程回復策は単一指標でなく、施工管理上の複数条件を満たす必要がある。
エ：× 事前検討が不足する。

総合解説：工程回復策は単一指標でなく、施工管理上の複数条件を満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044

工程・品質事例 > 工程遅延への対応 | 難易度：応用

コンクリート工程が遅れ、養生期間を短縮すれば予定日に追いつける。最も適切な判断はどれか。

ア．予定日に間に合うなら養生を半分にする。
イ．強度確認前に次工程へ進む。
ウ．品質試験を省略して時間を短縮する。
エ．必要な養生条件を満たした上で、前後工程や人員配置を見直して別の回復策を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 品質低下の可能性がある。
イ：× 要求品質を確認できない。
ウ：× 適切な品質管理ではない。
エ：○ 工程遅延を理由に品質確保に必要な施工条件を削ってはならない。

総合解説：工程遅延を理由に品質確保に必要な施工条件を削ってはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

施工中に品質不良が疑われる場合の初動として、最も適切なものはどれか。

ア．該当範囲を特定し、後工程へ進めず、測定・試験記録を確認する。
イ．完成後までそのまま施工を続ける。
ウ．記録を削除して様子を見る。
エ．原因不明のまま全て撤去する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 不良範囲を拡大させず、客観的なデータで状況を把握することが初動として重要である。
イ：× 不良範囲が拡大する可能性がある。
ウ：× 原因分析ができなくなる。
エ：× まず範囲・原因を確認する必要がある。

総合解説：不良範囲を拡大させず、客観的なデータで状況を把握することが初動として重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

品質不良が確認された材料・施工箇所の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．良品と同じ場所へ混ぜて保管する。
イ．適合品と混同しないよう識別・隔離し、処置が決まるまで使用・後施工を防止する。
ウ．不適合表示を外す。
エ．処置決定前に他工区へ転用する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 誤使用の原因になる。
イ：○ 不適合品の誤使用を防ぐため、識別・隔離と処置管理が必要である。
ウ：× 識別できなくなる。
エ：× 不適合が拡大する。

総合解説：不適合品の誤使用を防ぐため、識別・隔離と処置管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：基礎

品質不良の原因分析として、最も適切なものはどれか。

ア．必ず作業員個人のミスとする。
イ．測定器の誤差だけを原因とする。
ウ．材料、施工方法、機械、作業者、環境、測定方法など複数要因を確認する。
エ．原因を確認せず再施工だけ行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 他の要因を見落とす。
イ：× 根拠なく一因へ限定している。
ウ：○ 品質不良は複数要因が関係する場合があるため、早い段階で一因へ決めつけないことが重要である。
エ：× 再発する可能性がある。

総合解説：品質不良は複数要因が関係する場合があるため、早い段階で一因へ決めつけないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

同一日に打設した3ロットのコンクリートのうち1ロットだけ圧縮強度が要求値を下回り、その区画では翌日に仕上げ工程を予定している。最も適切な対応はどれか。

ア．他2ロットが合格なので、低強度ロットも同じ品質とみなして仕上げを進める。
イ．工程を守るため低強度試験結果を平均計算から除外する。
ウ．仕上げを先に施工し、強度不足の原因は完成後に調べる。
エ．該当ロットの後工程を止め、供試体・採取・養生・試験条件と構造物への影響を確認して処置を決める。

答え・解説

正答：エ

ア：× ロットごとに品質を評価する必要がある。
イ：× 異常値を恣意的に除外してはならない。
ウ：× 不可視化する前に不適合の評価・処置が必要である。
エ：○ 該当範囲を隔離し、試験の妥当性と実構造物への影響を確認して是正・追加調査を決める。

総合解説：品質不良が疑われる区画は、後工程で隠れる前に範囲を固定し、原因と性能影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

現場密度試験で締固め度不足が局部的に確認された。最も適切な対応はどれか。

ア．不足範囲を確認し、含水状態・層厚・転圧条件を見直して再施工し、再試験で確認する。
イ．不足値を近隣の合格値で置き換える。
ウ．次層を厚く施工して隠す。
エ．再試験せず見た目で合格とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 原因に対応した是正と再確認が必要である。
イ：× 不適切な記録操作である。
ウ：× 不良を残したままになる。
エ：× 客観的な確認が必要である。

総合解説：原因に対応した是正と再確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

舗装厚の測定で一部が規格値を下回った。最も適切な対応はどれか。

ア．平均厚が大きければ局部不足は無条件で無視する。
イ．不足範囲と原因を確認し、設計・規格に基づいて補修・再施工等の処置を決める。
ウ．測定位置を変更して合格値が出るまで測る。
エ．不足箇所を写真に写さなければよい。

答え・解説

正答：イ

ア：× 個別規格値の確認が必要である。
イ：○ 出来形不適合は、範囲・機能影響・規格要求を確認して適切な是正を行う。
ウ：× 恣意的な測定となる。
エ：× 品質不良は解消しない。

総合解説：出来形不適合は、範囲・機能影響・規格要求を確認して適切な是正を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

同じ品質不良が別工区でも繰り返された。最も適切な対応はどれか。

ア．各工区でその都度補修するだけにする。
イ．不良発生を報告しない。
ウ．共通原因を分析し、施工手順・管理基準・教育・機械条件などを全工区で見直す。
エ．作業者を交代させるだけで原因分析を終える。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 根本原因が残る。
イ：× 再発防止に必要な情報が失われる。
ウ：○ 繰返し不良は個別是正だけでは不十分で、仕組みの改善が必要である。
エ：× 他要因を見落とす可能性がある。

総合解説：繰返し不良は個別是正だけでは不十分で、仕組みの改善が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：標準

品質不良に対して現場で独自の補修方法を考案した。最も適切な対応はどれか。

ア．現場判断だけで構造性能に関わる補修を実施する。
イ．補修後は記録を残さない。
ウ．原因確認前に同じ補修を全箇所へ適用する。
エ．補修方法が設計・仕様・要求性能を満たすことを確認し、必要な承認・協議を経て実施する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 必要な確認・承認が不足する。
イ：× 追跡性を確保する必要がある。
ウ：× 適用妥当性を確認する必要がある。
エ：○ 補修は単に外観を直すのではなく、要求性能回復を確認して正式な手続で行う必要がある。

総合解説：補修は単に外観を直すのではなく、要求性能回復を確認して正式な手続で行う必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

舗装で平坦性不良と締固め不足が同じ区間に発生した。最も適切な対応はどれか。

ア．施工温度、敷均し、転圧開始時期、転圧回数、材料供給の記録を照合し、共通原因と影響範囲を特定する。

イ．別々の不良として原因の関連を検討しない。

ウ．平坦性だけ補修し締固め不足は無視する。

エ．締固め値だけ修正して記録上合格とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 複数不良が同一箇所が出た場合、施工プロセスに共通原因がある可能性を検討する。

イ：× 共通原因を見落とす可能性がある。

ウ：× 性能上の問題が残る。

エ：× 不適切である。

総合解説：複数不良が同一箇所が出た場合、施工プロセスに共通原因がある可能性を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054

工程・品質事例 > 品質不良への対応 | 難易度：応用

品質不良の是正に3日必要だが、そのまま進めれば工程は守れる。最も適切な判断はどれか。

ア．工程を守るため不良箇所を残す。

イ．不良を是正して要求品質を確保し、その上で後続工程の組替え等により工期影響を最小化する。

ウ．不良記録を削除して後工程へ進む。

エ．検査を省略して工程を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 要求品質を満たさない。

イ：○ 工程遵守を理由に品質不良を残してはならず、品質確保と工程回復を別々に検討する必要がある。

ウ：× 不適切な施工管理である。

エ：× 品質確認ができない。

総合解説：工程遵守を理由に品質不良を残してはならず、品質確保と工程回復を別々に検討する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形測定5点は全て規格値内だが、施工方向に沿って測定値が連続して上限値へ近づいている。最も適切な判断はどれか。

ア．全て規格内なので、今後も同じ施工条件を無条件に維持する。
イ．平均値だけ規格内なら、個々の測定値の推移は確認しない。
ウ．規格外になる前の傾向異常として、基準点・機械設定・施工方法を点検し、必要なら早期調整する。
エ．限界値に近い測定点を次回から測定対象から外す。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 規格内でも傾向異常は不適合の前兆になり得る。
イ：× 平均だけでは連続的な偏りを見逃す。
ウ：○ 傾向管理により、規格外へ逸脱する前に施工条件を是正できる。
エ：× 測定対象を恣意的に変えてはならない。

総合解説：出来形管理は合否判定だけでなく、測定値の偏りや連続傾向を見て予防的に是正することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形測定記録では測点No.12となっているが、対応する写真の黒板にはNo.13と表示されている。最も適切な対応はどれか。

ア．数値が規格内なので、測点番号の不一致は無視する。
イ．写真の番号だけデータ上でNo.12へ書き換え、現場位置は確認しない。
ウ．どちらか一方の記録を削除して不一致をなくす。
エ．測量野帳・位置図・写真撮影位置を照合し、正しい測点を特定して記録を是正する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 追跡性確保のため位置情報の整合が必要である。
イ：× 事実確認なしの書換えは不適切である。
ウ：× 記録削除では正しい出来形を確認できない。
エ：○ 複数記録を照合して実際の測点を確定し、誤記を訂正する。

総合解説：出来形管理では数値の適否だけでなく、測点・写真・位置図が対応し、後から検証できることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：基礎

出来形測定に使用する機器について、最も適切な管理はどれか。

ア．必要な精度が確保され、点検・校正等の状態を確認した機器を使用する。
イ．精度不明の機器でも値が出ればよい。
ウ．故障表示が出ていても使用する。
エ．機器ごとの差を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 測定機器の精度が不明では、出来形判定の信頼性を確保できない。
イ：× 測定値の信頼性がない。
ウ：× 正確な測定ができない可能性がある。
エ：× 精度管理が必要である。

総合解説：測定機器の精度が不明では、出来形判定の信頼性を確保できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

出来形測定値が規格値を外れた場合、最も適切な対応はどれか。

ア．平均値が良ければ個別超過を必ず無視する。
イ．測定条件と値を確認し、不適合範囲を特定して是正又は必要な協議を行う。
ウ．値を規格内に書き換える。
エ．測定点を削除して再計算する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 個別規格値の確認が必要である。
イ：○ 規格外値は無視せず、測定ミスの有無と実際の不適合範囲を確認して処置する。
ウ：× 不適切な記録操作である。
エ：× 恣意的な判定となる。

総合解説：規格外値は無視せず、測定ミスの有無と実際の不適合範囲を確認して処置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

全測定値は規格内だが、施工方向に向かって徐々に限界値へ近づいている。最も適切な対応はどれか。

ア．全て規格内なので一切確認しない。
イ．最後の一点だけ合格なら問題ない。
ウ．規格内でも施工条件や測量基準点、機械設定を確認し、逸脱前には正する。
エ．限界付近の値を削除する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 将来の逸脱を見逃す可能性がある。
イ：× 全体傾向を確認する必要がある。
ウ：○ 傾向管理により不適合になる前に異常を発見できる。
エ：× データ改変となる。

総合解説：傾向管理により不適合になる前に異常を発見できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

規格外値が出たため再測定したところ規格内となった。最も適切な対応はどれか。

ア．再測定が合格なら初回値を削除する。
イ．何度でも測り合格値だけ採用する。
ウ．初回値と再測定値の差は確認しない。
エ．最初の値が出た原因を確認し、測定誤差が実際のばらつきかを判断して記録を残す。

答え・解説

正答：エ

ア：× 客観性を失う。
イ：× 恣意的な判定になる。
ウ：× 原因分析が必要である。
エ：○ 都合のよい再測定値だけ採用せず、初回値の原因と測定条件を確認する必要がある。

総合解説：都合のよい再測定値だけ採用せず、初回値の原因と測定条件を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：標準

出来形写真と測定記録の位置が一致していない。最も適切な対応はどれか。

ア．測点・写真位置・測定記録を照合し、誤りを是正して追跡可能な状態にする。
イ．数値が合格なら写真位置は関係ないとする。
ウ．写真番号だけ書き換えて実態を合わせない。
エ．不整合を完成後まで放置する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 出来形管理では測定値と位置・写真の整合が重要である。
イ：× 記録の信頼性が低下する。
ウ：× 客観的な照合が必要である。
エ：× 早期是正が望ましい。

総合解説：出来形管理では測定値と位置・写真の整合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062

工程・品質事例 > 出来形判定 | 難易度：応用

擁壁の高さは規格内だが、位置と勾配が複数箇所で限界値付近に偏っている。最も適切な判断はどれか。

ア．高さが合格なので他項目は確認しない。
イ．各項目の規格適合だけでなく、位置・勾配の傾向と機能への影響を確認し、必要なら施工方法を早期是正する。
ウ．規格内ならどの方向へ偏っても問題ないとする。
エ．限界値付近の測点を測定対象から外す。

答え・解説

正答：イ

ア：× 位置・勾配も管理対象である。
イ：○ 出来形は複数項目の組合せで構造物の機能に影響するため、個別合否だけでなく傾向を総合評価する。
ウ：× 異常傾向は早期是正の対象となる。
エ：× 不適切な管理である。

総合解説：出来形は複数項目の組合せで構造物の機能に影響するため、個別合否だけでなく傾向を総合評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

労働災害の原因分析で、最も適切な考え方はどれか。

ア．被災者の性格だけを原因とする。
イ．事故が起きた行動だけを確認し、設備条件は見ない。
ウ．直接原因だけでなく、作業手順、設備、教育、配置、管理体制など背景要因まで確認する。
エ．原因分析を行わず経験則だけで再開する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 管理上の要因を見落とす。
イ：× 複数要因の分析が必要である。
ウ：○ 災害原因分析は『作業者の不注意』だけで終えず、再発につながる仕組み上の要因まで掘り下げることが重要である。
エ：× 再発防止につながらない。

総合解説：災害原因分析は『作業者の不注意』だけで終えず、再発につながる仕組み上の要因まで掘り下げることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因分析を行う際、最も適切な方法はどれか。

ア．最初に思いついた原因へ証拠を合わせる。
イ．写真や記録を確認せず記憶だけで判断する。
ウ．異なる証言はすべて無視する。
エ．現場状況、写真、機械記録、作業手順、関係者の聞き取りなど事実を整理し、推測と区別する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 先入観による分析となる。
イ：× 客観性に欠ける。
ウ：× 事実関係を照合する必要がある。
エ：○ 事故原因を正確に分析するには、客観的事実と推測を混同しないことが重要である。

総合解説：事故原因を正確に分析するには、客観的事実と推測を混同しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因が『作業員の確認漏れ』と判明した場合、次に確認すべき事項として最も適切なものはどれか。

ア．なぜ確認漏れが生じたか、手順、時間的余裕、表示、教育、監督体制を確認する。
イ．本人を注意して原因分析を終了する。
ウ．本人の経験年数だけを記録する。
エ．確認作業そのものを廃止する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ ヒューマンエラーは最終事象であることが多く、その発生を誘発した条件を分析する必要がある。
イ：× 同じ条件なら別の作業員でも再発する可能性がある。
ウ：× 作業環境や管理条件も確認する必要がある。
エ：× 安全機能を弱める可能性がある。

総合解説：ヒューマンエラーは最終事象であることが多く、その発生を誘発した条件を分析する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：基礎

災害原因を漏れなく整理する観点として、最も適切なものはどれか。

ア．人の要因だけを見る。
イ．人、機械・設備、作業方法、管理・環境など複数の観点から分析する。
ウ．機械故障だけを見る。
エ．管理者の印象だけで分類する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 設備や管理要因を見落とす。
イ：○ 事故は人だけでなく設備・方法・管理条件が相互に作用して発生するため、多面的に整理する。
ウ：× 人的・管理的要因も確認する。
エ：× 客観的な観点で整理する必要がある。

総合解説：事故は人だけでなく設備・方法・管理条件が相互に作用して発生するため、多面的に整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

バックホウ後退時に作業員と接触した。運転者はミラーを確認していたが、作業員は死角に入っていた。最も適切な原因分析はどれか。

ア．運転者の不注意だけで原因分析を終える。
イ．作業員が重機に近づいたことだけを原因とする。
ウ．死角の存在に加え、人と重機の動線分離、立入管理、誘導方法が不十分でなかったか確認する。
エ．ミラーがあったので管理上の問題はないとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 設備・動線・管理要因を見落とす。
イ：× 立入管理や作業計画も確認すべきである。
ウ：○ 運転者の確認だけでは死角を完全に解消できないため、作業区域の設計・管理も原因分析に含める。
エ：× 死角が残る可能性がある。

総合解説：運転者の確認だけでは死角を完全に解消できないため、作業区域の設計・管理も原因分析に含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

足場の開口部から作業員が墜落した。開口部には注意表示のみで手すりや覆いがなかった。最も適切な原因分析はどれか。

ア．被災者が表示を見なかったことだけを原因とする。
イ．注意表示があったので会社側の原因はないとする。
ウ．高所作業は危険なので事故は避けられないとする。
エ．開口部への物理的墜落防止設備が不足し、設備対策より注意喚起へ依存していたことを主要因として確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 設備上の防護不足がある。
イ：× 表示だけでは墜落を物理的に防げない。
ウ：× 適切な墜落防止措置でリスクを低減できる。
エ：○ 墜落危険箇所では、注意表示だけでなく手すり・覆い等の設備対策が基本である。

総合解説：墜落危険箇所では、注意表示だけでなく手すり・覆い等の設備対策が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

掘削法面が大雨後に崩壊した。前日に小さな亀裂と湧水増加が確認されていた。最も適切な原因分析はどれか。

ア．降雨による地山条件変化に加え、亀裂・湧水という前兆情報を作業中止・点検へ反映できなかった管理上の要因を確認する。

イ．大雨は自然現象なので原因分析は不要とする。

ウ．亀裂が小さかったので記録しなくてよかったとする。

エ．崩壊後の土量だけを測定して原因分析を終える。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 自然条件だけでなく、異常兆候を把握していたのに対応へつながらなかった点が重要な原因となる。

イ：× 予測・監視・中止判断の管理が必要である。

ウ：× 前兆情報として重要である。

エ：× 発生前の条件と管理を確認する必要がある。

総合解説：自然条件だけでなく、異常兆候を把握していたのに対応へつながらなかった点が重要な原因となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

吊荷が旋回して作業員に衝突した。最も適切な原因分析はどれか。

ア．作業員が避けられなかったことだけを原因とする。

イ．吊荷形状、重心、玉掛け方法、介錯方法、立入範囲、合図・風条件を確認する。

ウ．クレーンが正常なら事故原因はないとする。

エ．吊荷重量だけ確認して分析を終える。

答え・解説

正答：イ

ア：× 作業区域・吊荷管理も確認する必要がある。

イ：○ 吊荷挙動は玉掛け・風・操作・人員配置等の複数要因で変化するため、総合的に確認する必要がある。

ウ：× 玉掛けや作業方法に原因がある可能性がある。

エ：× 重心・風・立入等も重要である。

総合解説：吊荷挙動は玉掛け・風・操作・人員配置等の複数要因で変化するため、総合的に確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

工事車両が現場出入口で自転車と接触した。仮囲いで運転者の視界が悪かった。最も適切な原因分析はどれか。

ア：自転車側の不注意だけを原因とする。
イ：仮囲いは安全設備なので死角の影響はないとする。
ウ：死角、出入口形状、誘導員配置、歩行者・自転車動線、車両進入手順を確認する。
エ：事故車両の運転歴だけを確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 施工者側の出入口管理も確認する必要がある。
イ：× 安全設備が別の危険を生む場合がある。
ウ：○ 第三者事故は運転操作だけでなく、出入口の視認性と誘導計画が重要な背景要因になる。
エ：× 現場条件・管理方法も分析する必要がある。

総合解説：第三者事故は運転操作だけでなく、出入口の視認性と誘導計画が重要な背景要因になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：標準

猛暑日の午後、単独作業中の作業員が熱中症で倒れ、発見が遅れた。最も適切な原因分析はどれか。

ア：気温だけを原因として管理体制は確認しない。
イ：本人の体力不足だけを原因とする。
ウ：発見後の搬送だけ確認し、発症前の管理は見ない。
エ：暑熱環境、休憩・水分、体調に加え、単独作業時の巡視・連絡体制が十分だったか確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 発見遅れには連絡・巡視体制が関係する。
イ：× 作業環境と管理条件も確認する。
ウ：× 予防・早期発見の両方を分析する。
エ：○ 発症要因と重篤化要因を分け、早期発見体制まで分析する必要がある。

総合解説：発症要因と重篤化要因を分け、早期発見体制まで分析する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

高所作業中、強風で資材が動き、作業員が避けようとして手すりのない端部から墜落した。最も適切な原因整理はどれか。

ア．強風下の作業継続、資材固定不足、端部防護不足が連鎖して墜落に至ったと整理する。

イ．強風だけが原因で他要因は無関係とする。

ウ．手すりだけが原因で強風条件は無視する。

エ．作業員の避け方だけを原因とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 一つの原因ではなく、複数の防護層が同時に機能しなかった事故として分析するのが適切である。

イ：× 端部防護や資材固定も事故拡大に関係する。

ウ：× 作業継続判断も重要である。

エ：× 設備・作業条件の連鎖を見落とす。

総合解説：一つの原因ではなく、複数の防護層が同時に機能しなかった事故として分析するのが適切である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074

安全事例 > 災害原因分析 | 難易度：応用

事故報告書に『原因：作業員の不注意。対策：注意する』とだけ記載されている。最も適切な評価はどれか。

ア．簡潔なので十分な原因分析である。

イ．原因分析が浅く、設備・手順・教育・管理条件を再調査して具体的な再発防止策へつなげる必要がある。

ウ．事故原因は必ず個人の不注意なので追加分析不要である。

エ．対策は全員へ始末書を書かせれば十分である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 再発防止に必要な具体性が不足する。

イ：○ 『不注意』だけでは再発条件を除去できず、管理可能な背景要因へ掘り下げる必要がある。

ウ：× 組織・設備・手順要因が存在する場合がある。

エ：× 危険源を低減する対策になっていない。

総合解説：『不注意』だけでは再発条件を除去できず、管理可能な背景要因へ掘り下げる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075

安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

災害の再発防止策として、最も適切な考え方はどれか。

ア．全員へ『気を付ける』と伝えるだけにする。
イ．事故箇所を一時的に隠す。
ウ．原因に対応し、危険源除去や設備改善など効果の高い対策を優先して実施する。
エ．被災者を交代させるだけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 具体性・持続性が弱い。
イ：× 危険源が残る。
ウ：○ 再発防止は原因と対策を対応させ、人の注意だけに頼らないことが重要である。
エ：× 同じ条件なら再発する可能性がある。

総合解説：再発防止は原因と対策を対応させ、人の注意だけに頼らないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076

安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

ある工区で事故が発生した場合の水平展開として、最も適切なものはどれか。

ア．事故工区だけ直し他工区には知らせない。
イ．事故情報を秘密にする。
ウ．他工区は事故がないので点検不要とする。
エ．同種作業を行う他工区にも原因・対策を共有し、同じ危険がないか点検する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 同種事故が別工区で起きる可能性がある。
イ：× 学習機会を失う。
ウ：× 潜在的な同一危険を確認する必要がある。
エ：○ 事故箇所だけでなく、同様条件の他箇所へ対策を展開することで再発を予防できる。

総合解説：事故箇所だけでなく、同様条件の他箇所へ対策を展開することで再発を予防できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077

安全事例 > 再発防止 | 難易度：基礎

再発防止策を実施した後の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．対策後にリスクやヒヤリハットの発生状況を確認し、必要なら追加対策を行う。
イ．対策を一度実施したら永久に見直さない。
ウ．対策後のヒヤリハットは記録しない。
エ．事故件数だけ減れば手順逸脱は無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 対策は実施しただけで完了ではなく、実際にリスクが低下したかを確認する必要がある。
イ：× 条件変化や効果不足があり得る。
ウ：× 効果検証に使えない。
エ：× 潜在リスクを見落とす。

総合解説：対策は実施しただけで完了ではなく、実際にリスクが低下したかを確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

重機後退時の接触事故に対する再発防止策として、最も適切なものはどれか。

ア．運転者へ反省文を書かせるだけにする。
イ．人と重機の動線を分離し、危険範囲への立入を制限し、必要な誘導・警報を組み合わせる。
ウ．警笛の回数だけ増やす。
エ．作業員へ重機をよけるよう指示するだけにする。

答え・解説

正答：イ

ア：× 危険条件は残る。
イ：○ 接触機会そのものを減らす設備・動線対策を優先し、残るリスクへ誘導等を重ねる。
ウ：× 人と機械の分離がより確実である。
エ：× 作業者の注意へ依存している。

総合解説：接触機会そのものを減らす設備・動線対策を優先し、残るリスクへ誘導等を重ねる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

開口部からの墜落事故後の再発防止策として、最も適切なものはどれか。

ア．注意看板を大きくするだけにする。
イ．経験者だけ開口部付近で作業させる。
ウ．開口部に強固な覆い・手すり等を設け、取り外し時の代替措置と復旧ルールを定める。
エ．事故当日だけ監視員を置く。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 墜落を物理的に防止できない。
イ：× 経験で危険は除去できない。
ウ：○ 物理的防護と変更管理を組み合わせることで、開口部が無防護になる時間を減らせる。
エ：× 恒久的な仕組みになっていない。

総合解説：物理的防護と変更管理を組み合わせることで、開口部が無防護になる時間を減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

大雨後の地山崩壊事故に対する再発防止として、最も適切なものはどれか。

ア．天候は管理できないので対策しない。
イ．事故箇所だけ埋め戻して終える。
ウ．雨が止めば自動的に安全と判断する。
エ．降雨後点検項目、中止・再開基準、排水対策、地山変状の監視方法を施工計画に明記する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 監視・退避・排水等でリスクを低減できる。
イ：× 同様条件への対策が不足する。
ウ：× 地山状態の確認が必要である。
エ：○ 自然条件変化を監視・判断・行動へ結び付ける仕組みが必要である。

総合解説：自然条件変化を監視・判断・行動へ結び付ける仕組みが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

作業員が手順を省略して事故が起きた。再発防止として最も適切なものはどれか。

ア：手順が実行可能だったか、時間圧力や設備配置も確認し、必要なら手順・工程・監督方法を改善する。
イ：違反者を叱責して終了する。
ウ：手順書をさらに長くするだけにする。
エ：事故後も同じ工程圧力を維持する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 手順違反の背景に、無理な工程や使いにくい設備等がある場合は仕組み側を改善する必要がある。
イ：× 背景要因が残る可能性がある。
ウ：× 実行性の検証が必要である。
エ：× 逸脱を誘発する条件が残る。

総合解説：手順違反の背景に、無理な工程や使いにくい設備等がある場合は仕組み側を改善する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082

安全事例 > 再発防止 | 難易度：標準

新規入場者が現場固有ルールを知らず事故寸前となった。最も適切な再発防止はどれか。

ア：新規入場者には経験がないので危険作業を説明しない。
イ：新規入場時教育の内容と理解確認を見直し、現場固有の危険・立入区域・合図を確実に周知する。
ウ：資料を配るだけで理解確認を行わない。
エ：事故が起きるまで教育内容を変更しない。

答え・解説

正答：イ

ア：× むしろ重点的な教育が必要である。
イ：○ 教育は実施記録だけでなく、必要情報が伝わり理解されているかを確認する必要がある。
ウ：× 形骸化する可能性がある。
エ：× ヒヤリハット段階で改善すべきである。

総合解説：教育は実施記録だけでなく、必要情報が伝わり理解されているかを確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083

安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

同じ重機接触リスクに対し、 注意喚起、 誘導員配置、 人車動線の物理分離、 作業時間分離の案がある。最も適切な考え方はどれか。

ア． だけを最優先する。
イ． だけで十分とし動線は変えない。
ウ．可能な限り や で接触機会を減らし、必要に応じ ・ を補助的に組み合わせる。
エ．全対策を同じ効果とみなし無作為に選ぶ。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 最も人の注意へ依存する。
イ：× 誘導員が見落とす可能性が残る。
ウ：○ 再発防止では危険源への接触機会を構造的に減らす対策を優先し、人の注意へ依存しすぎないことが重要である。
エ：× 対策の階層と効果を評価する必要がある。

総合解説：再発防止では危険源への接触機会を構造的に減らす対策を優先し、人の注意へ依存しすぎないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084

安全事例 > 再発防止 | 難易度：応用

事故後、設備改修は完了したが、別工区では旧設備・旧手順が残っている。最も適切な対応はどれか。

ア．事故現場だけ安全になれば再発防止は完了である。
イ．旧設備の存在を記録せず使い続ける。
ウ．新手順は事故現場の担当者だけが知ればよい。
エ．事故原因と改修内容を全工区へ展開し、旧設備・旧手順の有無を確認して計画的に是正する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 他工区で同種事故が起こり得る。
イ：× 危険条件が残る。
ウ：× 組織的共有が必要である。
エ：○ 再発防止は事故現場だけで終わらず、同一リスクを持つ他箇所へ水平展開する必要がある。

総合解説：再発防止は事故現場だけで終わらず、同一リスクを持つ他箇所へ水平展開する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

現場で危険状態を発見した際の是正指示として、最も適切なものはどれか。

ア．危険作業を必要に応じ停止し、何が危険か、どう直すか、再開条件を具体的に指示する。
イ．『気を付けて』とだけ伝える。
ウ．危険を記録だけして作業を続ける。
エ．誰にも知らせず自分だけ覚えておく。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 是正指示は抽象的な注意ではなく、停止・是正内容・確認方法を明確にすることが重要である。
イ：× 具体的な是正内容が分からない。
ウ：× 急迫危険なら停止が必要である。
エ：× 現場全体の安全確保につながらない。

総合解説：是正指示は抽象的な注意ではなく、停止・是正内容・確認方法を明確にすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：基礎

是正後の作業再開に関する指示として、最も適切なものはどれか。

ア．作業者が急いでいれば確認前に再開する。
イ．是正内容を確認し、残留リスクが許容できる状態になったことを責任者が確認してから再開する。
ウ．一度指示したら結果確認は不要である。
エ．再開判断を全員別々に行う。

答え・解説

正答：イ

ア：× 是正効果の確認が必要である。
イ：○ 是正したつもりではなく、実際に危険が低減したことを確認して再開する必要がある。
ウ：× フォロー確認が必要である。
エ：× 指揮系統を明確にする。

総合解説：是正したつもりではなく、実際に危険が低減したことを確認して再開する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

足場の手すりが一部外れたまま高所作業が行われている。最も適切な是正指示はどれか。

ア：注意して作業を続けるよう指示する。
イ：作業終了時に手すりを戻せばよいとする。
ウ：該当作業を停止し、手すりを復旧又は適切な代替墜落防止措置を講じ、安全確認後に再開させる。
エ：経験者だけ作業を継続させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 無防護状態が残る。
イ：× 作業中の墜落リスクが高い。
ウ：○ 墜落危険があるため、作業継続より物理的な墜落防止の復旧を優先する。
エ：× 経験で設備不足を補えない。

総合解説：墜落危険があるため、作業継続より物理的な墜落防止の復旧を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

掘削法面に新しい亀裂が見つかったが、作業員が法面直下で作業を続けている。最も適切な是正指示はどれか。

ア：亀裂へ近づいて作業員に手で確認させる。
イ：亀裂が小さいので作業を継続させる。
ウ：写真だけ撮って翌日確認する。
エ：直ちに危険区域から退避させ、地山・湧水・土止め等を点検し、必要な補強後に再開する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 二次災害の危険がある。
イ：× 進行性が確認する必要がある。
ウ：× 急迫危険の可能性がある。
エ：○ 亀裂は崩壊前兆の可能性があるため、まず人を危険区域から離す必要がある。

総合解説：亀裂は崩壊前兆の可能性があるため、まず人を危険区域から離す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

移動式クレーンのアウトリガー下で地盤沈下が始まっている。最も適切な是正指示はどれか。

ア．吊上げ作業を停止して荷を安全に降ろし、地盤支持力・敷板・設置条件を是正する。
イ．吊荷が軽いのでそのまま続行する。
ウ．作業中に作業員がアウトリガーを手で支える。
エ．沈下した側だけさらに荷を増やして安定させる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ アウトリガー沈下は機体転倒の前兆となるため、直ちに作業を停止し設置条件を見直す。
イ：× 機体自重や反力も作用する。
ウ：× 重大な二次災害につながる。
エ：× 転倒リスクを高める。

総合解説：アウトリガー沈下は機体転倒の前兆となるため、直ちに作業を停止し設置条件を見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：標準

道路工事の誘導員が規制図と異なる位置に立ち、見通しが悪くなっている。最も適切な是正指示はどれか。

ア．誘導員が慣れているのでそのまま任せる。
イ．作業を一旦安全な状態にし、許可・規制計画に基づく配置へ戻して合図方法を再確認する。
ウ．誘導員を外し標識だけにする。
エ．規制図を現場の誤った配置に合わせて無断で書き換える。

答え・解説

正答：イ

ア：× 規制計画との不整合がある。
イ：○ 交通誘導は規制計画と一体で機能するため、自己流の配置変更を放置してはならない。
ウ：× 現場条件により安全性が低下する。
エ：× 正式な変更手続が必要となる場合がある。

総合解説：交通誘導は規制計画と一体で機能するため、自己流の配置変更を放置してはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

現場巡視で 足場手すり欠損、 通路に資材、 書類の軽微な記載漏れ、 重機旋回範囲への人の立入りを発見した。最も適切な対応はどれか。

ア . の書類修正を最優先し危険作業は続ける。
イ . すべて同じ優先度として翌日まとめて直す。
ウ . と の重大災害へ直結する危険を直ちに停止・是正し、 も早期是正した上で を処理する。
エ . ～ を記録するだけで是正しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 人命へ直結する危険を優先すべきである。
イ：× 急迫危険を放置することになる。
ウ：○ 是正は災害の重篤度と発生可能性から優先順位を付けるべきである。
エ：× 危険状態を解消する必要がある。

総合解説：是正は災害の重篤度と発生可能性から優先順位を付けるべきである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092

安全事例 > 現場是正指示 | 難易度：応用

同じ安全不備が巡視のたびに繰り返される。最も適切な是正管理はどれか。

ア . 毎回同じ注意を口頭で繰り返すだけにする。
イ . 巡視記録から不備を削除する。
ウ . 担当者が変われば自然に直ると考える。
エ . その場の是正に加え、原因・責任者・期限を定め、完了確認と水平展開まで追跡する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 根本原因が残る。
イ：× 改善機会を失う。
ウ：× 仕組み上の原因を確認する必要がある。
エ：○ 繰返し不備は単発の口頭注意では解決しにくく、原因分析と完了確認を含む閉ループ管理が必要である。

総合解説：繰返し不備は単発の口頭注意では解決しにくく、原因分析と完了確認を含む閉ループ管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

元請の特定建設業者が土木工事を直接請け負い、下請契約の総額が5,200万円となった。配置すべき技術者として最も適切なものはどれか。

ア：主任技術者に代えて監理技術者を配置する。
イ：主任技術者だけを配置すればよい。
ウ：技術者は配置しなくてよい。
エ：現場代理人だけでよい。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 建築一式以外では、元請の特定建設業者が下請総額5,000万円以上となる場合、監理技術者の配置が必要となる。
イ：× この下請総額では監理技術者が必要である。
ウ：× 施工の技術上の管理を担う技術者配置が必要である。
エ：× 現場代理人と主任・監理技術者は制度上の役割が異なる。

総合解説：建築一式以外では、元請の特定建設業者が下請総額5,000万円以上となる場合、監理技術者の配置が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

公共性のある工作物に関する土木工事で、請負代金が4,800万円である。主任技術者等の配置として最も適切なものはどれか。

ア：4,500万円未満なので専任不要である。
イ：原則として工事現場ごとに専任で配置する。
ウ：下請総額5,000万円未満なら専任不要である。
エ：公共工事では技術者配置自体が不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 設問は4,800万円で基準以上である。
イ：○ 建築一式以外の重要な建設工事では、請負代金4,500万円以上が専任配置の原則となる。
ウ：× 監理技術者要件と専任要件は別である。
エ：× 逆に適正な技術者配置が必要である。

総合解説：建築一式以外の重要な建設工事では、請負代金4,500万円以上が専任配置の原則となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：基礎

下請業者が自ら請け負った専門工事を施工する場合の主任技術者について、最も適切なものはどれか。

ア．下請業者には主任技術者は一切不要である。
イ．経験年数に関係なく誰でも主任技術者になれる。
ウ．所定の資格・実務経験要件を満たす主任技術者を原則として工事現場に配置する。
エ．作業員名簿に名前があれば技術者要件は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 下請業者にも配置義務がある。
イ：× 資格・実務経験要件がある。
ウ：○ 元請だけでなく、建設業者が請け負った工事を施工する場合には主任技術者等の配置が必要となる。
エ：× 法定要件を満たす必要がある。

総合解説：元請だけでなく、建設業者が請け負った工事を施工する場合には主任技術者等の配置が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

元請の特定建設業者が土木工事を6,000万円で請け負い、下請総額は4,600万円である。技術者配置の判断として最も適切なものはどれか。

ア．下請総額4,600万円なので技術者配置は不要である。
イ．請負代金6,000万円なので必ず監理技術者が必要である。
ウ．主任技術者であれば専任要件は適用されない。
エ．監理技術者ではなく主任技術者が基本だが、請負代金が4,500万円以上なので原則専任が必要となる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 主任技術者の配置が必要である。
イ：× 監理技術者要否は下請総額等で判定する。
ウ：× 主任技術者にも専任要件がある。
エ：○ 監理技術者要否は下請総額5,000万円以上、専任要否は請負代金4,500万円以上で別々に判定する。

総合解説：監理技術者要否は下請総額5,000万円以上、専任要否は請負代金4,500万円以上で別々に判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

工事途中で専任の主任技術者が長期離脱することになった。最も適切な対応はどれか。

ア．後任者の資格・雇用関係等を確認し、施工管理記録を引き継いだうえで必要な手続を行う。
イ．資格確認なしで現場代理人を主任技術者へ変更する。
ウ．前任者の記録を破棄して後任者に一から管理させる。
エ．技術者不在のまま工事を継続する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 技術者交代では、適格性と施工管理の継続性を確保する必要がある。
イ：× 主任技術者要件を満たす必要がある。
ウ：× 施工管理の継続性を損なう。
エ：× 必要な技術者配置を確保する必要がある。

総合解説：技術者交代では、適格性と施工管理の継続性を確保する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

専任が原則必要な工事で、ICT等を活用した兼任特例を使いたい。最も適切な対応はどれか。

ア．現場が近ければ他条件を確認せず兼任できる。
イ．対象工事、金額、距離、連絡体制等の特例要件を確認し、全て満たす場合に適用する。
ウ．発注者へ知らせず自由に兼任できる。
エ．兼任特例を使えば技術者の責任はなくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 複数の法定要件を満たす必要がある。
イ：○ 専任特例は人手不足だけを理由に自由に使える制度ではなく、法定要件の確認が必要である。
ウ：× 必要な手続・条件確認が必要である。
エ：× 技術上の管理責任は残る。

総合解説：専任特例は人手不足だけを理由に自由に使える制度ではなく、法定要件の確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

舗装工事の主任技術者候補が、対象工種に必要な資格・実務経験を満たしていない。最も適切な対応はどれか。

ア：会社に長く勤務していれば配置する。
イ：現場代理人と兼務させれば資格不足を補える。
ウ：対象工種の要件を満たす別の技術者を配置する。
エ：工期が短いので無資格でも一時配置する。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 在籍年数だけでは法定要件を満たさない。
イ：× 兼務の有無で資格要件は消えない。
ウ：○ 主任技術者は請け負った工事業種に対応する資格・実務経験要件を満たす必要がある。
エ：× 工程都合で要件を免除できない。

総合解説：主任技術者は請け負った工事業種に対応する資格・実務経験要件を満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：標準

共同企業体で公共土木工事を施工する際、技術者配置を決める場合の考え方として最も適切なものはどれか。

ア：代表者だけ技術者を置き、他構成員は常に不要である。
イ：JVでは建設業法の技術者制度は適用されない。
ウ：下請総額は考慮しなくてよい。
エ：構成員ごとの役割と下請総額等を確認し、主任技術者・監理技術者の要件を満たす配置とする。

答え・解説

正答：エ

ア：× 構成員にも必要な配置がある。
イ：× 適用される。
ウ：× 監理技術者要否の判断に関係する。
エ：○ 共同企業体でも構成員の役割や元請としての条件に応じ、適正な技術者配置を行う必要がある。

総合解説：共同企業体でも構成員の役割や元請としての条件に応じ、適正な技術者配置を行う必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

元請A社は土木工事を8,000万円で請け負い、下請総額5,300万円。技術者候補Xは2級土木施工管理技士で主任技術者要件は満たすが、監理技術者要件は満たさない。最も適切な判断はどれか。

ア．A社には監理技術者が必要なので、X以外の監理技術者要件を満たす者を専任配置する。
イ．Xを主任技術者として専任配置すれば足りる。
ウ．Xを現場代理人にすれば監理技術者要件を満たす。
エ．工事額が大きいだけなので技術者要件は変わらない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 下請総額5,000万円以上なので監理技術者が必要で、請負代金4,500万円以上なので原則専任も必要となる。
イ：× 監理技術者が必要な条件である。
ウ：× 役職変更で資格要件は満たせない。
エ：× 下請総額により監理技術者要件が生じる。

総合解説：下請総額5,000万円以上なので監理技術者が必要で、請負代金4,500万円以上なので原則専任も必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102

法規事例 > 技術者配置 | 難易度：応用

専任技術者が急病で離脱し、翌日に重要なコンクリート打設を予定している。最も適切な対応はどれか。

ア．技術者不在のまま打設を強行する。
イ．適格な後任技術者を確保して必要な引継ぎ・手続を行い、確保できない場合は打設工程を変更する。
ウ．無資格の班長を一日だけ代行させる。
エ．後任者へ引継ぎせず名前だけ登録する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 必要な技術者配置を欠く。
イ：○ 法定配置を欠いたまま重要工程を進めるのではなく、法令と品質管理を両立する必要がある。
ウ：× 法定要件を満たさない。
エ：× 実質的な施工管理ができない。

総合解説：法定配置を欠いたまま重要工程を進めるのではなく、法令と品質管理を両立する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103

法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

公共土木工事を元請として施工し、下請は1社のみで請負額800万円である。施工体制台帳等の作成について、最も適切なものはどれか。

ア．下請が1社なので施工体制台帳・施工体系図は作成しない。
イ．下請額が5,000万円未満なので公共工事でも作成不要である。
ウ．公共工事では下請金額にかかわらず、施工体制台帳・施工体系図を作成して施工体制を管理する。
エ．請負額800万円なら作業員名簿だけで法定施工体制資料を代替できる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 公共工事であることによる作成義務を確認する必要がある。
イ：× 民間工事の金額基準と混同している。
ウ：○ 公共工事では下請代金の総額にかかわらず施工体制台帳等の作成が必要となる。
エ：× 作業員名簿と施工体制台帳等は役割が異なる。

総合解説：法規事例では、金額の大小だけでなく『公共工事が民間工事か』という条件を先に整理して施工体制台帳の要否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104

法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

公共工事の施工体制台帳には一次下請A社と二次下請C社が記載されているが、現場掲示の施工体系図にはA社しか表示されていない。最も適切な対応はどれか。

ア．施工体系図は工事完成時だけ更新すればよいので、そのまま施工を続ける。
イ．施工体制台帳にC社があれば、施工体系図へ表示する必要はない。
ウ．C社の記載を台帳から削除し、施工体系図に合わせる。
エ．契約・施工実態を確認し、施工体制台帳と施工体系図を最新の同一施工体制へ整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 施工中の実態を反映して管理する必要がある。
イ：× 施工体系図も現場の施工分担を明確にする資料である。
ウ：× 実態に合わせるのであって、正しい情報を削除して一致させてはならない。
エ：○ 施工体制資料は相互に整合し、実際の元請・下請関係を正確に示す必要がある。

総合解説：施工体系図の役割は単なる定義暗記ではなく、台帳・契約・現場実態の不一致を発見し是正することにある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105

法規事例 > 施工体制 | 難易度：基礎

施工体制台帳を作成している公共工事で、現場巡視時に台帳へ記載のない二次下請業者が既に作業していることが判明した。最も適切な対応はどれか。

ア．作業関係を確認し、必要な再下請負通知を受け、技術者・契約内容等を確認して台帳・施工体系図へ反映する。

イ．二次下請は一次下請が管理するため、元請は施工体制へ反映しなくてよい。

ウ．作業員名簿に氏名だけ追加すれば、再下請関係の確認は不要である。

エ．工事完成時にまとめて台帳へ追記すれば、施工中は未記載でもよい。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 元請が施工体制全体を把握できるよう、未通知の再下請関係を是正し必要情報を反映する。

イ：× 施工体制台帳を作成する工事では多層下請の把握が必要である。

ウ：× 契約・技術者等の施工体制情報も確認する必要がある。

エ：× 施工中の実態を最新資料へ反映する。

総合解説：無届・未記載の下請を発見した場合は、書類追記だけでなく契約関係・技術者・安全教育まで実態を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106

法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

施工体制台帳には二次下請が記載されているが、現場では別の三次下請が作業している。最も適切な対応はどれか。

ア．書類と現場が違っていても作業が進めば問題ない。

イ．実際の契約・施工関係を確認し、必要な通知を受けて台帳・体系図を更新する。

ウ．三次下請を記録せず口頭だけで管理する。

エ．台帳から二次下請も削除して簡単にする。

答え・解説

正答：イ

ア：× 施工責任の把握ができない。

イ：○ 施工体制資料は現場実態と一致していることが重要である。

ウ：× 施工体制台帳等へ反映する必要がある。

エ：× 実際の施工体制を正確に記載する。

総合解説：施工体制資料は現場実態と一致していることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107

法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

元請が一括下請負に該当しないか確認するため、現場で『実質的関与』の有無を調べる。元請の実質的関与を示す資料として最も適切なものはどれか。

ア．元請会社名が印刷された契約書だけ。
イ．下請業者が施工した出来高金額の一覧だけ。
ウ．元請が施工計画、工程、品質、安全、技術者管理を具体的に行った記録。
エ．元請が請負代金を受領したことを示す入金記録だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 契約名義だけでは施工への実質的関与は判断できない。
イ：× 金額情報だけでは施工管理への関与が分からない。
ウ：○ 一括下請負の判断では、元請が施工計画・工程・品質・安全等を自ら管理している実態が重要である。
エ：× 代金受領だけで施工管理への関与を示すことはできない。

総合解説：一括下請負の判断は、形式的な契約関係よりも、元請が工事の施工へ実際にどのように関与しているかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108

法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

主任技術者が交代したが、現場標識は旧技術者名のままである。最も適切な対応はどれか。

ア．完成まで旧名のままにする。
イ．標識を撤去して不一致をなくす。
ウ．台帳だけ更新し標識は更新しない。
エ．実際の配置に合わせて標識を更新し、施工体制資料とも整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 実態と不一致になる。
イ：× 必要な揭示義務がある。
ウ：× 関連資料を整合させる必要がある。
エ：○ 現場標識は実際の許可・技術者配置を正確に示す必要がある。

総合解説：現場標識は実際の許可・技術者配置を正確に示す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109

法規事例 > 施工体制 | 難易度：標準

工事中で下請業者を変更し、担当工種も入れ替えた。最も適切な対応はどれか。

ア．契約、技術者配置、施工体制台帳・施工体系図、作業員情報等を変更後の実態へ更新する。
イ．契約だけ変更し施工体制資料はそのままにする。
ウ．作業員だけ入れ替えればよい。
エ．変更情報を元請内だけで共有し現場へ伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 下請変更は施工責任・技術者・安全管理にも影響するため、関連資料を一体で見直す。
イ：× 実態と書類が不一致になる。
ウ：× 技術者・契約・施工分担等も確認する。
エ：× 関係者への周知が必要である。

総合解説：下請変更は施工責任・技術者・安全管理にも影響するため、関連資料を一体で見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110

法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

公共工事で、施工体制台帳にはA→B→Cと記載されているが、施工体系図はA→Bのみ、現場標識は旧主任技術者名、作業員名簿にはC社がない。最も適切な対応はどれか。

ア．最も新しい一つの書類だけ残して他は削除する。
イ．契約・現場実態を確認し、台帳・体系図・標識・作業員情報を同一の最新状態へ是正する。
ウ．施工体制台帳が正しければ他の不一致は無視する。
エ．工事完成時にまとめて直す。

答え・解説

正答：イ

ア：× 必要資料を正しく整備する必要がある。
イ：○ 施工体制関係資料は相互に整合し、現場実態を正確に示す必要がある。
ウ：× 各資料に役割があり整合が必要である。
エ：× 施工中に実態を反映する必要がある。

総合解説：施工体制関係資料は相互に整合し、現場実態を正確に示す必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111

法規事例 > 施工体制 | 難易度：応用

二次下請が無断で三次下請を入れ、その作業員が現場ルールを知らず重機区域へ立ち入った。最も適切な対応はどれか。

ア．安全教育だけ行い無断再下請はそのままにする。
イ．三次下請の作業員だけを注意して再開する。
ウ．作業を止め、施工体制の未通知を是正するとともに、新規入場教育・立入管理・指揮系統を再構築する。
エ．台帳だけ修正し現場教育は行わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 施工体制の問題が残る。
イ：× 仕組み上の原因が残る。
ウ：○ 施工体制の不備は安全管理の不備へ直結するため、書類と現場運用を同時に是正する必要がある。
エ：× 安全管理上不十分である。

総合解説：施工体制の不備は安全管理の不備へ直結するため、書類と現場運用を同時に是正する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

道路上で工事・作業を行う場合に必要となる代表的な手続として、最も適切なものはどれか。

ア．建設業許可だけあればよい。
イ．道路占用許可だけで必ず足りる。
ウ．労災保険の成立届だけでよい。
エ．道路交通法に基づく道路使用許可を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 道路交通法上の手続は別である。
イ：× 道路上の工事・作業には道路使用許可が必要となる場合がある。
ウ：× 道路工事の交通規制手続とは別である。
エ：○ 道路における工事・作業は道路使用許可の対象となる。

総合解説：道路における工事・作業は道路使用許可の対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：基礎

施工途中の工法変更により、翌週から新たに騒音規制法上の特定建設作業に該当する作業を追加することになった。最も適切な対応はどれか。

ア．追加作業の届出要否と開始可能日を確認し、必要な届出を行って法定期間を満たしてから開始する。
イ．元の工事について着工済みなので、追加する特定建設作業は無届で開始できる。
ウ．作業日数が短ければ、特定建設作業に該当しても届出義務はなくなる。
エ．完成後に届出書を提出すれば、事前手続をしたものとして扱える。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 工法変更で新たに届出対象となる場合は、その作業について事前手続を再確認する必要がある。
イ：× 工事全体が着工済みでも、新たな届出対象行為を自由に追加できるわけではない。
ウ：× 届出要否は法令上の対象作業・条件で判断する。
エ：× 事前届出を事後提出で代替することはできない。

総合解説：施工変更時は、設計・工程だけでなく、追加された作業が新たな法令手続の対象にならないか再判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

歩道上へ仮設足場を2か月設置し、組立・解体時には車線規制も行う。最も適切な手続はどれか。

ア．道路使用許可だけで足場を2か月設置できる。
イ．道路占用許可と道路使用許可の双方について要否を確認する。
ウ．道路占用許可だけで車線規制も自由に行える。
エ．仮設物なのでいずれも不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 継続占用には道路占用許可を確認する。
イ：○ 継続設置は道路占用、道路上作業・規制は道路使用の対象となり得る。
ウ：× 道路使用許可等を確認する。
エ：× 仮設でも許可対象となり得る。

総合解説：継続設置は道路占用、道路上作業・規制は道路使用の対象となり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

河川敷を占用し、仮設棧橋を設け、周辺を掘削する計画である。最も適切な手続の考え方はどれか。

ア．河川敷を使うので第24条だけ確認すればよい。
イ．仮設なら河川法の許可は不要である。
ウ．土地占用・工作物設置・土地掘削等について河川法上の各許可要否を整理する。
エ．道路使用許可を受ければ河川法許可は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 工作物・掘削の許可も確認する。
イ：× 河川管理へ影響する行為は許可対象となり得る。
ウ：○ 河川法では第24条、第26条、第27条など、具体的行為ごとに許可を確認する必要がある。
エ：× 別法令である。

総合解説：河川法では第24条、第26条、第27条など、具体的行為ごとに許可を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

特定建設資材を使用する請負代金700万円の土木工事である。発注者側の手続として最も適切なものはどれか。

ア．700万円は1,000万円未満なので対象外である。
イ．元請が完成後に届け出ればよい。
ウ．道路工事なら建設リサイクル法は適用されない。
エ．対象建設工事に該当するため、原則として工事着手7日前までの届出を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 土木工事等は500万円以上が基準である。
イ：× 発注者等による事前届出である。
ウ：× 対象要件を満たせば適用される。
エ：○ 土木工事等は請負代金500万円以上が規模基準で、対象工事は事前届出が必要である。

総合解説：土木工事等は請負代金500万円以上が規模基準で、対象工事は事前届出が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

施工途中でブレーカー作業を追加し、新たに特定建設作業に該当することが分かった。最も適切な対応はどれか。

ア．特定建設作業の届出要否と開始可能時期を確認し、必要な手続を行ってから作業する。
イ．工事全体の届出が済んでいれば追加作業は常に自由である。
ウ．1日だけなら届出不要と判断する。
エ．作業後に届出書の日付だけ遡らせる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 工法変更で新たに法定届出対象となる場合、工程都合で無届作業を始めてはならない。
イ：× 新たな特定建設作業の手続を確認する。
ウ：× 法定要件に基づき判断する。
エ：× 不適切である。

総合解説：工法変更で新たに法定届出対象となる場合、工程都合で無届作業を始めてはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：標準

周知の埋蔵文化財包蔵地で土木工事を行う計画が判明した。最も適切な対応はどれか。

ア．建設業許可があれば文化財手続は不要である。
イ．文化財保護法上の事前届出等を確認し、工程へ必要期間を反映する。
ウ．着工後に遺跡が壊れてから確認する。
エ．工期が短い場合は文化財手続を省略する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 別法令である。
イ：○ 埋蔵文化財関係手続は着工前に必要となり得るため、施工計画段階で確認する必要がある。
ウ：× 事前確認・届出が必要である。
エ：× 法定手続を守る必要がある。

総合解説：埋蔵文化財関係手続は着工前に必要となり得るため、施工計画段階で確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

市街地道路脇の河川区域近接工事で、道路占用は取得済みだが道路使用許可、河川法協議、特定建設作業届出の確認が未完了である。最も適切な対応はどれか。

ア．道路占用許可があれば他手続は不要とみなす。
イ．工期優先で着工し、後からまとめて申請する。
ウ．未確認手続を洗い出し、必要な許可・届出が完了するまで該当作業を開始しない。
エ．現場担当者の経験で不要と判断し記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 各法令は目的が異なる。
イ：× 事前手続が必要なものがある。
ウ：○ 一つの許可取得で他の法令手続が不要になるわけではなく、着工前に全ての法的条件を確認する必要がある。
エ：× 根拠確認が必要である。

総合解説：一つの許可取得で他の法令手続が不要になるわけではなく、着工前に全ての法的条件を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120

法規事例 > 手続・届出 | 難易度：応用

設計変更により、道路占用幅の拡大、河川区域内の盛土追加、夜間ブレーカー作業が必要となった。最も適切な対応はどれか。

ア．当初の許可があるので変更後も全て自動的に有効である。
イ．変更箇所だけ先に施工し手続は後に行う。
ウ．法令手続は設計者だけの問題として施工者は確認しない。
エ．変更内容ごとに道路・河川・騒音等の許可・届出条件を再確認し、必要な変更手続後に施工計画を更新する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 許可範囲・条件を超える変更は再確認が必要である。
イ：× 事前手続が必要となる場合がある。
ウ：× 施工管理上も着工条件を確認する必要がある。
エ：○ 設計変更は法令適用条件も変えるため、施工図だけでなく許可・届出を再判定する必要がある。

総合解説：設計変更は法令適用条件も変えるため、施工図だけでなく許可・届出を再判定する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121

複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

次の工程進捗表を読んで、最も適切な判断はどれか。

作業	計画進捗	実績進捗
掘削	100%	100%
基礎碎石	100%	80%
型枠	60%	40%
埋戻し	0%	0%

ア．基礎碎石と型枠が計画より遅れており、後続工程への影響を確認する必要がある。
イ．掘削が100%なので全体工程は予定どおりである。
ウ．埋戻しが0%なので最も大きな遅延である。
エ．型枠は40%進んでいるので計画より進んでいる。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 計画と実績を比較すると、基礎碎石は20ポイント、型枠も20ポイント遅れているため、後続工程への影響確認が必要である。
イ：× 後続の基礎碎石・型枠が遅れている。
ウ：× 計画も0%なので現時点では遅延とはいえない。
エ：× 計画60%に対し実績40%で遅れている。

総合解説：計画と実績を比較すると、基礎碎石は20ポイント、型枠も20ポイント遅れているため、後続工程への影響確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122

複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

次の盛土締固め度の測定結果を読んで、最も適切な判断はどれか。

測点	締固め度
A	96%
B	95%
C	91%
D	96%

管理基準：95%以上

ア．4点平均が94.5%以上なら全て合格とする。
イ．測点Cが管理基準を下回っているため、不適合範囲と原因を確認する。
ウ．AとDが高いのでCの不足を相殺できる。
エ．Cだけ測定記録から除外すればよい。

答え・解説

正答：イ

ア：× 個別測点の基準適合を確認する必要がある。
イ：○ 管理基準95%以上に対し、Cのみ91%で基準を下回るため是正対象となる。
ウ：× 局部不良は他点で相殺できない。
エ：× 不適切なデータ操作である。

総合解説：管理基準95%以上に対し、Cのみ91%で基準を下回るため是正対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123

複合問題 > 図表読解 | 難易度：基礎

安全巡視結果は次のとおりである。最優先で是正すべきものはどれか。

通路に空箱1個

足場端部の手すり欠損

掲示板の日付が1日古い

工具箱の表示文字が薄い

ア．通路に空箱1個

イ．掲示板の日付が1日古い

ウ．足場端部の手すり欠損

エ．工具箱の表示文字が薄い

答え・解説

正答：ウ

ア：× 転倒要因ではあるが、手すり欠損の重大性がより高い。
イ：× 管理上の不備だが、急迫した墜落危険より優先度は低い。
ウ：○ 墜落による重大災害へ直結するため、他の軽微な不備より優先して停止・是正する。
エ：× 即時の重大災害リスクは比較的小さい。

総合解説：墜落による重大災害へ直結するため、他の軽微な不備より優先して停止・是正する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

次の3作業の状況から、工程回復で最も優先して確認すべき作業はどれか。

作業A：計画80%、実績70%、後続作業なし

作業B：計画60%、実績50%、完了後にコンクリート打設開始

作業C：計画40%、実績25%、独立作業で余裕5日

ア．作業A

イ．作業C

ウ．A・B・Cを全く同じ優先度で扱う。

エ．作業B

答え・解説

正答：エ

ア：× 遅れはあるが後続作業がなく、全体工期支配度は相対的に低い。
イ：× 遅れ幅は大きい5日の余裕がある。
ウ：× 工程影響度を考慮する必要がある。
エ：○ 遅れ幅だけでなく、後続のコンクリート打設開始を支配するため、全体工程への影響が大きい。

総合解説：遅れ幅だけでなく、後続のコンクリート打設開始を支配するため、全体工程への影響が大きい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

舗装厚の測定値が次のように推移している。規格値は設計厚以上とする。

測点1	102 mm
測点2	101 mm
測点3	100 mm
測点4	99 mm
測点5	98 mm

設計厚：100 mm

ア：測点4・5が不足しており、さらに低下傾向もあるため施工条件を早急に確認する。
イ：平均値が100mmなので全点合格とする。
ウ：測点1が厚いので測点5の不足を補える。
エ：測点5だけ補修し、低下傾向は確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 4・5は規格外であるうえ、全体として低下傾向があるため、局部は正と根本原因確認の両方が必要である。
イ：× 個別規格外値を平均で相殺できない。
ウ：× 局部不足は補えない。
エ：× 再発防止のため傾向原因も確認すべきである。

総合解説：4・5は規格外であるうえ、全体として低下傾向があるため、局部は正と根本原因確認の両方が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

着工前確認表は次のとおりである。

建設業許可	：確認済
道路占用許可	：確認済
道路使用許可	：未確認
特定建設作業届出	：対象、提出済
河川法許可	：対象外

この状態で道路上の掘削作業を開始する判断として最も適切なものはどれか。

ア：道路占用許可があるので直ちに開始する。
イ：道路使用許可の要否・取得状況を確認し、必要手続が完了するまで開始しない。
ウ：建設業許可があるので道路関係手続は不要である。
エ：特定建設作業届出済なので道路使用許可も自動的に取得済みとなる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 道路使用許可は別制度である。
イ：○ 道路上の工事・作業には道路使用許可が必要となる場合があり、未確認のまま着工してはならない。
ウ：× 別法令の手続である。
エ：× 制度は連動しない。

総合解説：道路上の工事・作業には道路使用許可が必要となる場合があり、未確認のまま着工してはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

明日の作業配置案は次のとおりである。

班A：高所作業 4名（全員経験者、うち必要資格者0名）
班B：一般土工 6名
班C：重機誘導 2名

高所作業には所定の資格・教育を満たす者の配置が必要である。最も適切な判断はどれか。

ア．経験者4名なのでそのまま開始する。
イ．班Bから無資格者1名を移せばよい。
ウ．班Aへ必要な資格・教育要件を満たす者を配置できるまで高所作業を開始しない。
エ．班Cの誘導員を外して高所作業へ回す。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 経験だけで法定要件を代替できない。
イ：× 必要要件を満たす者が必要である。
ウ：○ 経験者であっても法令・作業要件に必要な資格・教育を満たす必要がある。
エ：× 誘導機能を失ううえ資格要件也未確認である。

総合解説：経験者であっても法令・作業要件に必要な資格・教育を満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

コンクリート受入れ試験結果は次のとおりである。

車両1：スランプ 8.0 cm、空気量 4.5％
車両2：スランプ 8.5 cm、空気量 4.6％
車両3：スランプ 12.0 cm、空気量 4.5％

車両1・2は通常範囲で、車両3だけスランプが大きく変動した。最も適切な対応はどれか。

ア．平均値だけ見て全車受け入れる。
イ．車両3だけ記録から削除する。
ウ．空気量が同じなのでスランプ差は無視する。
エ．車両3の配合・運搬時間・加水等を確認し、受入可否を判断する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 異常車両を見逃す。
イ：× 不適切なデータ管理である。
ウ：× 別の品質特性であり確認が必要である。
エ：○ 一台だけ傾向から外れているため、原因を確認してから使用判断する必要がある。

総合解説：一台だけ傾向から外れているため、原因を確認してから使用判断する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129

複合問題 > 図表読解 | 難易度：標準

リスク評価結果は次のとおりである。

作業A：発生可能性2 × 重篤度2 = 4
作業B：発生可能性3 × 重篤度4 = 12
作業C：発生可能性1 × 重篤度4 = 4
作業D：発生可能性2 × 重篤度3 = 6

数値が大きいほど優先度が高い。最優先で対策すべきものはどれか。

ア．作業B
イ．作業A
ウ．作業C
エ．作業D

答え・解説

正答：ア

ア：○ 評価値12で最も高く、優先的なリスク低減が必要である。
イ：× 評価値4である。
ウ：× 重篤度は高いが評価値は4である。
エ：× 評価値6でBより低い。

総合解説：評価値12で最も高く、優先的なリスク低減が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130

複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

次の状況である。

- ・型枠：2日遅れ
- ・コンクリート打設：型枠完了後でなければ開始不可
- ・予定打設日：3日後
- ・コンクリート供給予約：変更には2日前連絡が必要
- ・型枠増員余地：1班追加可能
- ・作業ヤード：追加1班までなら安全確保可能

最も適切な対応はどれか。

ア．予定打設日まで何も連絡せず様子を見る。
イ．型枠へ1班追加して回復可能性を確認し、同時に供給業者へ打設日の変更可能性も早期連絡する。
ウ．型枠へ3班追加して強引に回復する。
エ．型枠未完でも予定どおり打設を開始する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 供給予約変更期限を逃す可能性がある。
イ：○ 回復余地と外部調達の変更期限を同時に管理することで、工程リスクを最小化できる。
ウ：× ヤード安全条件を超える。
エ：× 施工前提条件を満たさない。

総合解説：回復余地と外部調達の変更期限を同時に管理することで、工程リスクを最小化できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131

複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

擁壁の出来形結果は次のとおりである。

測点 高さ 位置偏差 勾配
A 適合 適合 適合
B 適合 限界付近 適合
C 適合 限界付近 限界付近
D 適合 規格外 限界付近

最も適切な判断はどれか。

ア．高さが全て適合なので全体合格とする。
イ．Dだけ数値を書き換えて合格とする。
ウ．Dを不適合として処置するとともに、B～Dの連続した偏りから測量基準や施工方法も確認する。
エ．B・Cは規格内なので傾向を見ない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 位置・勾配も管理対象である。
イ：× 不適切な記録操作である。
ウ：○ Dの個別不適合だけでなく、BからDへ悪化する傾向があるため根本原因の確認が必要である。
エ：× 異常傾向を早期把握すべきである。

総合解説：Dの個別不適合だけでなく、BからDへ悪化する傾向があるため根本原因の確認が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132

複合問題 > 図表読解 | 難易度：応用

夜間道路工事の開始前確認結果は次のとおりである。

道路使用許可：取得済（21:00～5:00）
誘導員：計画4名、配置3名
照明設備：正常
作業開始予定：20:30
特定建設作業届出：対象外

最も適切な対応はどれか。

ア．20:30から開始し、21:00までは静かに作業する。
イ．誘導員3名でも工期優先で開始する。
ウ．照明が正常なので他条件は無視してよい。
エ．許可開始時刻前には作業せず、誘導員不足も解消して計画条件を満たしてから開始する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 道路使用許可の条件に反する。
イ：× 計画上必要な安全配置を満たしていない。
ウ：× 法令・人員条件も必要である。
エ：○ 許可時間と安全配置の両方を満たして初めて着工条件が整う。

総合解説：許可時間と安全配置の両方を満たして初めて着工条件が整う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133

複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

複数の施工条件を整理する際、最も適切な方法はどれか。

ア．法令・安全・品質・工程・資源・周辺条件に分け、必須条件と調整可能条件を区別する。
イ．全条件を同じ優先度で並べる。
ウ．工期だけを条件として残す。
エ．担当者の記憶だけで管理する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 条件の性質を分類すると、絶対に守る条件と代替可能な条件を区別しやすくなる。
イ：× 優先順位が付けにくい。
ウ：× 安全・品質・法令を見落とす。
エ：× 漏れや変更忘れが起こりやすい。

総合解説：条件の性質を分類すると、絶対に守る条件と代替可能な条件を区別しやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134

複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

施工条件に『法定許可未取得』『資材搬入1日遅れ』『作業員1名欠員』がある。最優先で解決すべき条件はどれか。

ア．資材搬入1日遅れ
イ．法定許可未取得
ウ．作業員1名欠員
エ．3条件とも法的に同じ重要度である。

答え・解説

正答：イ

ア：× 工程調整で対応できる可能性がある。
イ：○ 許可が着工条件である作業は、取得前に開始できないため最優先で処理する必要がある。
ウ：× 配置見直し等で調整できる可能性がある。
エ：× 許可未取得は着工可否を直接左右する。

総合解説：許可が着工条件である作業は、取得前に開始できないため最優先で処理する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135

複合問題 > 条件整理 | 難易度：基礎

『夜間施工のみ可』『騒音作業は22時まで』『道路使用許可は21時～5時』という条件がある。騒音作業可能時間として整理すべきものはどれか。

ア．20時から22時まで。夜間施工条件だけを満たせば道路使用許可時間前でも作業できる。
イ．21時から5時まで。道路使用許可時間内なら騒音作業の時刻制限は考慮しない。
ウ．21時から22時まで。3条件すべての共通範囲で施工する。
エ．22時以降のみ。騒音作業は遅い時間帯ほど影響が小さいため許可時間内ならよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 道路使用許可が21時からなので、20時台は条件を満たさない。
イ：× 22時以降は騒音作業条件を満たさない。
ウ：○ 夜間施工、道路使用許可21～5時、騒音作業22時までの共通範囲は21～22時である。
エ：× 騒音作業は22時までという条件に反する。

総合解説：複数の施工条件は、それぞれを独立に満たすだけでなく共通する実施可能範囲を求める。ここでは21時から22時までが唯一の共通時間帯である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

作業ヤード幅6m、バックホウ旋回に4m、人用通路に1.5m、資材仮置きに2m必要である。全てを横並びに配置する案について最も適切な判断はどれか。

ア．6m以内なのでそのまま配置できる。
イ．人用通路をなくせば問題ない。
ウ．旋回範囲を無視して資材を置く。
エ．必要幅は7.5mとなるため、時間分離や配置変更を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 必要幅を合計すると7.5mである。
イ：× 安全通路を確保する必要がある。
ウ：× 接触事故の危険がある。
エ：○ $4+1.5+2=7.5$ mでヤード幅6mを超えるため、同時配置は成立しない。

総合解説： $4+1.5+2=7.5$ mでヤード幅6mを超えるため、同時配置は成立しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

作業Aは2日、Bは3日でA完了後に開始、Cは2日でAと並行可能、Dは1日でBとCの両方完了後に開始する。最短工期は何日か。

ア．AとCを同時に開始し、A完了後にBを3日行い、BとCの完了後にDを1日行うため、最短6日となる。
イ．A・B・C・Dをすべて直列に施工する必要があるため、最短8日となる。
ウ．CはAと並行できるが、DはBだけ終われば開始できるので最短5日となる。
エ．A完了時点でCも必ず完了しているとみなし、BとDを同時施工して最短4日とする。

答え・解説

正答：ア

ア：○ AとCを並行し、A2日後にBを開始して3日、最後にD1日なので最短6日である。
イ：× CはAと並行可能なので全作業を直列にする必要はない。
ウ：× DはBとCの両方が完了してから開始する必要がある。
エ：× DはB完了後に開始する作業であり、Bとの同時施工はできない。

総合解説：最長経路はA2日→B3日→D1日の6日である。CはAと並行して2日で完了するため、D開始時点では制約にならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

舗装施工条件として『混合物温度が所定範囲内』『降雨なし』『下層表面が清浄』『転圧機械正常』が必要である。降雨中だが他条件は全て満たす場合、最も適切な判断はどれか。

ア．4条件中3条件を満たすので施工する。
イ．降雨条件を満たさないため、施工可否を見直して必要なら中止する。
ウ．温度が適正なら降雨は無視する。
エ．転圧回数を増やせば降雨条件を代替できる。

答え・解説

正答：イ

ア：× 多数決で判定するものではない。
イ：○ 複数条件のうち一つでも必須条件を満たさない場合、その影響を無視して施工してはならない。
ウ：× 降雨は品質へ影響する。
エ：× 別の品質要因である。

総合解説：複数条件のうち一つでも必須条件を満たさない場合、その影響を無視して施工してはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139

複合問題 > 条件整理 | 難易度：標準

作業に必要な条件は『作業主任者1名、誘導員2名、一般作業員4名』である。現在『作業主任者1名、誘導員1名、一般作業員6名』がいる。最も適切な対応はどれか。

ア．総人数8名なのでそのまま開始する。
イ．作業主任者を誘導員と兼務させ、主任者業務を中断する。
ウ．誘導員をもう1名確保するか、必要な能力を満たす者を一般作業員から適切に配置転換する。
エ．誘導員1名で2名分の位置を同時に担当させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 役割別条件を満たしていない。
イ：× 必要な役割機能を失う可能性がある。
ウ：○ 人数総数が足りていても、役割別の必要人数・能力を満たす必要がある。
エ：× 必要な監視範囲を確保できない可能性がある。

総合解説：人数総数が足りていても、役割別の必要人数・能力を満たす必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140

複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

コンクリート打設条件は『型枠検査済』『鉄筋検査済』『道路使用許可時間内』『降雨強度が基準以下』である。型枠・鉄筋は合格、許可時間内だが降雨が基準を超えている。最も適切な判断はどれか。

ア．4条件中3条件合格なので打設する。
イ．道路使用許可時間を優先して品質条件を無視する。
ウ．検査済なので天候条件は関係ない。
エ．降雨条件を満たさないため打設を開始せず、天候回復や対策後に再判定する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 必須条件は多数決で決めない。
イ：× 法令と品質の両方を満たす必要がある。
ウ：× 施工時の品質条件も重要である。
エ：○ 必須条件を全て満たすことが着工条件であり、3条件合格でも1条件不適合ならその影響を評価する必要がある。

総合解説：必須条件を全て満たすことが着工条件であり、3条件合格でも1条件不適合ならその影響を評価する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141

複合問題 > 条件整理 | 難易度：応用

工程回復案Aは法定労働時間上限を超える、案Bは品質確認時間を省略する、案Cは作業順序変更で1日回復、案Dは許可条件外の夜間施工で2日回復する。最も適切な案はどれか。

ア．案C
イ．案A
ウ．案B
エ．案D

答え・解説

正答：ア

ア：○ 法令・品質・許可条件を守りながら回復できる案を優先すべきであり、案Cが最も適切である。
イ：× 労働時間上限を超える案は採用できない。
ウ：× 品質確認を省略してはならない。
エ：× 許可条件外施工は不適切である。

総合解説：法令・品質・許可条件を守りながら回復できる案を優先すべきであり、案Cが最も適切である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

現場で工程・品質・安全の判断が競合した場合の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．工程を最優先し安全・品質は後で補う。
イ．法令と人命安全を守り、要求品質を確保した上で、工程・コストを調整する。
ウ．コスト最小化だけで判断する。
エ．判断基準を毎回担当者の好みで変える。

答え・解説

正答：イ

ア：× 重大事故・不適合につながる。
イ：○ 工程やコストは重要だが、法令違反や重大災害、品質不適合を前提に達成してはならない。
ウ：× 安全・品質・法令を無視できない。
エ：× 一貫した優先原則が必要である。

総合解説：工程やコストは重要だが、法令違反や重大災害、品質不適合を前提に達成してはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

現場で重大な異常が複数同時に発生した場合、最初の総合判断として最も適切なものはどれか。

ア．工程表を更新してから退避させる。
イ．原因が完全に分かるまで作業を続ける。
ウ．人を危険から退避させ、作業を安全な状態にしてから原因・影響範囲を整理する。
エ．責任者が来るまで誰も動かない。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 人命安全が先である。
イ：× 危険が拡大する可能性がある。
ウ：○ 情報収集より先に急迫した危険から人を守る必要がある。
エ：× 急迫危険時には退避等が必要である。

総合解説：情報収集より先に急迫した危険から人を守る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：基礎

現場条件が当初計画から大きく変わった場合の総合判断として、最も適切なものはどれか。

ア．工程表だけ変更する。
イ．現場口頭指示だけで処理する。
ウ．当初計画を一切変更しない。
エ．施工計画、工程、品質、安全、法令手続への影響を確認し、必要な変更を相互に整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：× 品質・安全・法令への影響を見落とす。
イ：× 正式資料との不整合が生じる。
ウ：× 現場条件に適用できない。
エ：○ 一つの変更が複数管理項目へ波及するため、個別変更だけで終えないことが重要である。

総合解説：一つの変更が複数管理項目へ波及するため、個別変更だけで終えないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

河川工事中、上流で豪雨が発生し、水位上昇が予測される一方、打設中のコンクリートを中断すると施工不良の懸念がある。最も適切な判断はどれか。

ア．退避基準に達する前に安全側で作業中止・退避を判断し、打設中断による品質影響は別途是正計画で対応する。

イ．品質を守るため退避基準を超えても打設を続ける。

ウ．全員退避後、品質記録は残さない。

エ．水位予測は不確実なので無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 人命安全を優先し、品質上の問題は安全確保後に技術的に処置する。

イ：× 人命安全を損なう。

ウ：× 中断状況を記録し品質評価へつなげる必要がある。

エ：× 予測情報を退避判断へ活用する。

総合解説：人命安全を優先し、品質上の問題は安全確保後に技術的に処置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

品質不良の補修に2日必要だが、契約工期に余裕がない。最も適切な対応はどれか。

ア．補修を省略して完成扱いにする。

イ．要求品質を満たす補修を実施し、後続工程の組替えや資源調整で工期影響を最小化する。

ウ．不良記録を削除して後工程へ進む。

エ．検査を省略して時間を稼ぐ。

答え・解説

正答：イ

ア：× 要求品質を満たさない。

イ：○ 工期を理由に不良を残してはならず、品質確保後に工程回復策を検討する。

ウ：× 不適切である。

エ：× 品質確認を損なう。

総合解説：工期を理由に不良を残してはならず、品質確保後に工程回復策を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

工程回復のため、昼間作業を夜間へ移す案が出たが、道路使用許可は昼間のみである。最も適切な対応はどれか。

ア．夜間なら交通量が少ないので無許可で施工する。
イ．工程回復中は許可条件を一時無効とする。
ウ．夜間施工の必要性を整理し、道路使用許可等の変更可否を確認して、許可条件内で実施できる案へ調整する。
エ．昼間許可証の時刻だけ現場で書き換える。

答え・解説

正答：ウ

ア：× 許可条件に反する。
イ：× そのような扱いはできない。
ウ：○ 工程変更で許可条件が変わる場合、法令手続を更新せず施工してはならない。
エ：× 正式な手続が必要である。

総合解説：工程変更で許可条件が変わる場合、法令手続を更新せず施工してはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

狭い市街地現場で工程遅延を回復するため重機を1台追加したいが、追加すると歩行者通路と旋回範囲が重なる。最も適切な判断はどれか。

ア．歩行者へ注意してもらい重機を追加する。
イ．誘導員なしで重機を追加する。
ウ．歩行者通路を閉鎖し代替経路を設けない。
エ．重機追加は見送り、時間分離・別工法・別配置など第三者安全を確保できる回復策を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：× 施工者側で安全な動線を確保すべきである。
イ：× リスクがさらに高まる。
ウ：× 第三者の安全・通行に支障する。
エ：○ 工程回復策で新たな重大リスクを生じさせてはならない。

総合解説：工程回復策で新たな重大リスクを生じさせてはならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：標準

主要下請業者が急遽変更となり、技術者・作業員・施工方法も変わる。最も適切な対応はどれか。

ア．施工体制台帳等を更新し、技術者資格、作業手順、品質・安全教育、工程影響を再確認してから作業へ移行する。

イ．契約書だけ差し替えて即日施工させる。

ウ．前下請の手順をそのまま新下請へ適用する。

エ．施工体制資料は完成時に更新する。

答え・解説

正答：ア

ア：○ 下請変更は書類だけでなく施工能力・品質・安全・工程へ広く影響する。

イ：× 現場管理条件の確認が不足する。

ウ：× 施工能力・方法の適合を確認する必要がある。

エ：× 施工中の実態を反映する必要がある。

総合解説：下請変更は書類だけでなく施工能力・品質・安全・工程へ広く影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150

複合問題 > 現場総合判断 | 難易度：応用

次の状況が同時に発生している。

- ・ 工程：主要作業が2日遅れ
- ・ 品質：盛土1区画が締固め度不足
- ・ 安全：掘削法面に新しい亀裂
- ・ 法令：翌日の夜間道路作業は許可時間外
- ・ 資源：応援班1班を追加可能

最も適切な対応はどれか。

ア．応援班を直ちに法面下へ投入し遅れを回復する。

イ．法面周辺を直ちに安全化し、締固め不足を是正し、道路作業は許可条件を調整した上で、応援班を安全に投入できる工程回復へ使う。

ウ．締固め不足を残し、許可時間外でも夜間施工して2日取り戻す。

エ．工程遅延だけを記録し、他の問題は完成後に処理する。

答え・解説

正答：イ

ア：× 亀裂による崩壊危険がある。

イ：○ 安全、品質、法令の必須条件を順に満たし、その後に資源追加で工程回復を図るのが総合的に適切である。

ウ：× 品質・法令の両方に反する。

エ：× 重大な安全・品質・法令問題を放置することになる。

総合解説：安全、品質、法令の必須条件を順に満たし、その後に資源追加で工程回復を図るのが総合的に適切である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21